

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の優先順位は下記による。

1)

本特記仕様書

2)

設計図

3)

標準図

4)

仕様書

5)

日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は、意匠図、構造図及び設備図による。

1-7

建築設備の構造強度は施行令第129条の2の4及びH12建告第138号の規定に適合すること。

§ 2

仮設工事

§ 3

土工事

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土

＊根切り土の中の良土

・搬入良土

盛土

＊根切り土の中の良土

・搬入良土

残土処分

・場内地均し

＊場外搬出処分（＊自由・指定場所）


§ 4

地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場 所		均しコンクリート			A：砕 石		厚 さ	
		※(1)			B：割栗石			
基 礎	独立、布	＊50	・ 60	・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
	ベ タ	＊50	・ 60	・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
地 中 梁			＊50	・ 60 ・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
			＊50	・ 60 ・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
構造スラブ			＊50	・ 60 ・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
			＊50	・ 60 ・ 100	＊A	・ B	＊60	・ 100 ・ 150 ・
土間スラブ	屋内	＊50	・ 60	・ 100	＊A	・ B	＊60	○100 ・ 150 ・
	屋外	・ 50	・ 60	・ 100	＊A	・ B	・ 60	＊100 ・ 150 ・

注(1)アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2)端部aは100以上とする。

4-2

設計地耐力

地耐力

載荷試験

・行う（箇所、長期設計耐力の3倍を確認する）

＊行わない（）

4-3

地盤改良

無筋コンクリート地業

締固め工法

・ソイルセメント杭

セメント系固化工法

圧密排水工法

・柱状地盤改良（サンコラム工法）

［・載荷試験・一軸圧縮試験］

・行う（箇所）

＊行わない

［・六価クロム溶出試験］

・行う

＊行わない

4-4

既製コンクリート杭

1) 杭種

・PHC杭

・A種

・B種

・C種

・

・ST杭

・A種

・B種

・C種

・

・SC杭

・

・

・

・

・CPRC杭

・Ⅰ種

・Ⅱ種

・Ⅲ種

・Ⅳ種

・節杭

・A種

・B種

・C種

・

・

・

・

・

・

2) 工法

・打撃工法

・油圧ハンマー

・ディーゼルハンマー

・埋込工法

・プレボーリングセメントミルク注入工法

・プレボーリング拡大根固め工法（認定工法）

杭周固定液

＊あり

・なし

・中掘拡大根固め工法（認定工法）

・回転掘根固め工法（認定工法）

・ジオメキシングトップ工法

3) 杭径、設計耐力表

杭径（拡底部）mm	長期kN	短期kN	終局kN	備 考

4) 杭の構成表

杭径（拡底部）mm	上 杭		中 杭		下 杭		全長 m	本数
	長さ	種別	長さ	種別	長さ	種別		

5) 杭頭補強

・かご筋

・スタッド溶接

・異形鉄筋

4-5 場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1) 工法

・アースドリル工法

・拡底アースドリル工法

・リバーシ工法

・オールケーシング工法

・BH工法

・

2) 杭径、設計耐力、本数表（拡底部は施工径を示す）

杭径（拡底部）mm	管厚mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考

3) 杭先端深さ GLー m

4) 孔壁測定（2方向）

＊行う（・全数・％）

＊行わない

5) 使用材料

Fc N/mm²

＊普通ボルトランドセメント

・

鉄筋

・D16以下 SD295A

・D19以上 SD345

・D 以上 SD390

鋼管（リブ付）

・SKK400

・SKK490

4-6 鋼管杭、その他特殊杭

1) 杭種 羽根付鋼管杭

材種 STK490

2) 工法

・打撃工法（・油圧ハンマー・ディーゼルハンマー）

○運込工法

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭径（拡底部）mm	管厚mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
406.4 (1000)	12.7	1049	2591		17	
355.6 (900)	12.7	1049	2099		2	
267.4 (800)	12.7	829	1658		21	
165.2 (450)	7.1	260	520		4	

4-7 杭打地業共通事項

1) 〔・杭先決定用先行杭・試験堀〕

・行う（1本）

＊行わない

2) 載荷試験

・行う（箇所、長期設計耐力の3倍を確認する）

＊行わない

3) S L塗布

・行う

＊行わない

§ 5

鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手		
○SD295A	D16以下	＊重ね継手・1275級	・工場溶接	
○SD345	D19以上	・重ね継手	＊溶接継手・機械継手	
・SD390	D 以上	＊溶接継手・機械継手		
・溶接金網	D 以上	・重ね継手		
・高強度せん断補強筋	・1275級 P	・重ね継手	・1275級	・工場溶接
	・ 785級 K			
	・ 685級 UD UR			

溶接継手

＊ガス圧接

＊突き合せ溶接（D16以下は重ねアーク溶接でも可）

※鉄筋のガス圧接継手はH12建告第1463号の規定に適合すること。

5-2 溶接部の検査（第三者機関による）

○抜取り検査

・引張り試験（JISZ3120）

1検査ロットにつき 本

○超音波探傷試験（JISZ3062）

1検査ロットにつき 30箇所

※1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数量で200箇所以内。

不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。

また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

5-3 梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品（評定品）を使用する。

5-4 その他

鉄筋の組立は適切な位置にスパーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。

コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。

コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6

コンクリート工事

6-1

設計基準強度（N/mm²）

1) セメント

＊普通ボルトランドセメント（JISR5210）

・高炉セメントB種

・低熱ボルトランドセメント（JISR5210）

2) 粗骨材

・砂利

＊砕石

・高炉スラグ

・人工軽量骨材

・再生骨材

最大径（mm）

＊20

・25

・40

3) 躯体

＊普通コンクリート

・Fc18

○Fc21

・Fc24

・Fc27

・Fc30

・Fc

・軽量コンクリート

・LfFc18

・LfFc21

・LfFc24

・LfFc27

・LfFc30

・LfFc

4) 土間コンクリート

・Fc18

○Fc21

5) 均しコンクリート

○Fc15

・Fc18

6) 防水押さえコンクリート

・Fc18

・LfFc18（機関単位容積質量 18.5）

7) かさ上げコンクリート

・Fc18

・LfFc18（機関単位容積質量 18.5）

6-2 混和材

＊AE減水剤

・高性能AE減水剤

・躯体防水材

・膨張材

6-3

箇 所	基礎、地中梁	一 般	備 考
スランブ cm	15	18	
水セメント比 %	60	60	60以下
単位水量 kg/m ³	185	185	185以下
単位セメント量 kg/m ³	270	270	270以上

6-4 試験（躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う）

1) 骨材

〔○塩分含有量

○アルカリシリカ反応

〕

＊行う

＊行わない

2) フレッシュコンクリート

〔○スランブ

○空気量

〕

＊行う

＊行わない

3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験

＊行う

＊行わない

4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験

・行う

＊行わない

5) マスコンクリートのひび割れ照査（温度応力解析）

・行う

＊行わない

6-5 調査強度は下記の両式を満足するものとする。（補正値は工事費に含む）

Fm=Fq+mSn

Fm：調査管理強度

Fq：品質基準強度

mSn：構造体強度補正値

6-6 せき板及び支柱の在置期間（普通ボルトランドセメントの場合）

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	15℃以上	3日	17日
	5℃以上	5日	25日
	0℃以上	8日	28日
圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85Fq又は12N/mm ²	設計強度

6-7 コンクリートの養生は建築基準法施行令第75条の規定による。

§ 7

鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所 ※鉄骨工事仕様書による

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	梁	小梁	他
一般構造用圧延鋼材	○SS400	・	○	○	○
溶接構造用圧延鋼材	・SM400A	・SM490A			
建築構造用圧延鋼材	・SM400A	・			
	・SN400B	・SN490B			
	・SN400C	○SN490C			
建築構造用圧延鋼材	○STKR400	・STKR490	○		
建築構造用圧延鋼材	○BGR295（MSTL-0141同等品）	○			
建築構造用圧延鋼材	・BCP235	・BCP325			
建築構造用圧延鋼材	○SSC400	・			○
・	・				

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使用 箇 所	
トルシヤ形高力ボルト	＊S10T	全般（MBLT-0052同等品）
JIS形高力ボルト	・F10T	トルシヤ形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	・F8T	母材が亜鉛メッキされている部分

7-3 普通ボルト、アンカーボルト

1) 材質

○SS400（認定柱脚以外）

・SA490（M16以上）

・ABR400

・ABR490

2) 大臣認定柱脚（メーカー仕様による）

○使用する

・使用しない

7-4 ・頭付スタッド

径	長 さ（mm）	使用 箇 所
・16φ	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	
・	・ 80 ・ 100 ・ 120 ・ 150 ・	

7-5 溶接材料

1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スクラップ形状

＊スクラップ工法

・ノンスクラップ工法

7-7 継手

	柱	梁		
フランジ	・高力ボルト	＊現場溶接	＊高力ボルト	・現場溶接
ウェブ	・高力ボルト	＊現場溶接	＊高力ボルト	・現場溶接

7-8

溶接手法及び管理

使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、選任の管理技術者により管理を行うこと。

7-9 デッキプレート（単位mm）

1) 床用

高さ

・

板厚

・

2) 合成スラブ用

高さ

・

板厚

・

3) 型枠用

高さ

・

板厚

・

4) 防錆処理

亜鉛メッキ

・Z12

・Z12

その他

・Q Lデッキ標準図による

7-10 錆止め塗装（工場塗1回1種、現場塗1回2種を原則とする）

1) 素地こしらえ

＊ケレン

・ブラスト

2) 錆止め塗料

適 用	塗 料	塗布量（kg/m ² ）			
室外	室内	1種	2種		
・	＊	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	0.10	
・	・	一般用錆止めペイント	JISK5621	0.09	
・	・	鉛丹錆止めペイント	JISK5622	0.17	0.14
＊	・	シアナミド鉛錆止めペイント	JISK5625	0.12	0.10

3) 溶融亜鉛メッキ

・行う

・行わない

7-11 溶接部の検査（受入検査）

＊行う

＊行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者（元請）との直接契約による。

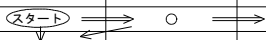
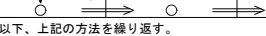
2) 第三者検査機関は?日本溶接協会によるC I W検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とする。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 6付則」鉄骨精度基準による。

5) 超音波探傷検査は母材厚6mm以上の突き合せ継手を対象とし、合格判定は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」による。

6) 工事溶接に対し第三者検査機関による検査箇所数は下表による。

検 査 段 階	1	2	3
検 査 箇 所 数	30%以上	60%以上	100%
第 1 節			
第 2 節			
第 3 節	以下、上記の方法を繰り返す。		
○ ← ○	不合格率 5%	未満の場合	
○ ← ○	〃	5% 以上の場合	

7) 現場溶接の場合は第三者機関による検査を100% 行う。

8) 不合格と判定された溶接部はすべて修補を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの修補方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査補強マニュアル」等を参考にする。

7-12 鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定（グレード）					
S	H	Ⓜ	R	J	

§ 8

コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PC板工事

8-1

コンクリートブロック

1) 種類

・A種

・B種

・C種

2) 厚さ（mm）

・100

・120

・150

・190

・

8-2 ALCパネル

1) 使用箇所

・床

・屋根

○外壁

・内壁

2) 厚さ（mm）

・50

・75

○100

・120

・150

・

3) 外壁取り付け構法

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	・SDR構法		
	○ロッキング構法	意匠図による	
横	・HDR構法		
	・ボルト止め構法		

8-3 押出成形セメント板

外壁取付構法及び厚さ（mm）

・60

・

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	・ロッキング構法		
横	・スライド構法		

§ 9

建築設備

9-1

建築設備の構造強度は建築基準法施行令第129条の2の3に適合すること。

鉄筋工事仕様書 No. 2

壁の配筋

1. 一般事項

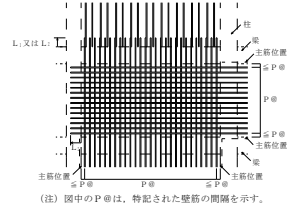
1) 壁配筋の重ね継手及び定着長さは、特記がなければ、Lとする。

2) 土圧等を受ける壁及び耐震壁として特記されたものは、重ね継手長さをL、定着長さをLとする。

3) 重ね継手及び定着の長さが取れない場合は、監督員と協議する。

4) 幅止め筋は、縦横ともD10-1、0.00@程度とする。

5) 一般部壁の配筋は、下図による。



(注) 図中のPφは、特記された壁筋の間隔を示す。

2. 壁の配筋基準は下図により、種別は特記による。

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W10	D10-250@シングル	
W12	D10-200@シングル	
W15A	D10-150@シングル	
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	
W20B	D10-150@ダブル	

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

3. 片持ちスラブ形階段を受ける壁の配筋基準は下図により、種別は特記による。

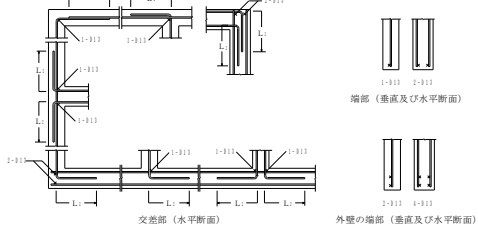
種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋図
KW1	縦筋 D13-210@ダブル		KA1
	横筋 D13-210@シングル		KA3
KW2	縦筋 D13-150@ダブル		KA2
	横筋 D13-210@ダブル		KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

4. バラベットの配筋は、下図による。

コンクリート厚さ	方向	配筋	先端補強筋
特記による。	縦	D10-150@ダブル	
	横	D10-150@ダブル	

5. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

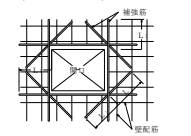


6. 壁開口部の補強

1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。適用は特記による。特記がなければ、B形とする。なお、耐震壁の補強筋は、特記による。

壁開口部補強筋 (A形)				壁開口部補強筋 (B形)			
壁の種類	縦筋	横筋	斜め	壁の種類	縦筋	横筋	斜め
W12, W15	2-311	2-311	1-311	W12, W15	2-311	2-311	1-311
W18, W20	2-311	2-311	2-311	W18, W20	4-311	4-311	2-311

2) 壁開口部補強の定着長さは、下図による。

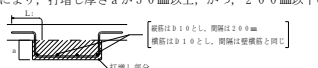


3) 開口部が柱及び梁に接する部分又は最大径が300mm以下で鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

7. コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記による。

8. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し補強配筋は、下図により、打増し厚さaが50mm以上、かつ、200mm以下の場合に適用する。



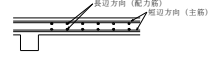
床スラブの配筋

1. スラブの配筋は、次による。

1) スラブの基準配筋 (S形基準配筋) は下表及び下図により、配筋種別及びスラブ厚さは、特記による。

S形基準配筋					
配筋種別	短方向 (主筋) 全長	短方向 (配力筋) 全長	配筋種別	短方向 (主筋) 全長	短方向 (配力筋) 全長
S1	D13-100@	D13-100@	S8	D18, D13-150@	D10-150@
S2	同上	D13-150@	S9	同上	D10-200@
S3	同上	D10, D13-150@	S10	D18, D13-200@	D10, D13-200@
S4	D13-150@	D13-150@	S11	同上	D10-200@
S5	同上	D10, D13-150@	S12	同上	D10-250@
S6	同上	D10-150@	S13	D10-200@	D10-200@
S7	D18, D13-150@	D10, D13-150@	S14	同上	D10-250@

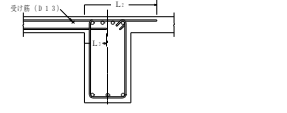
(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



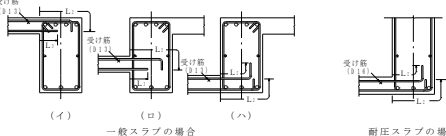
2) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

3) 鉄筋の重ね継手長さは、Lとする。

4) 定着長さ及び受け筋は、下図による。

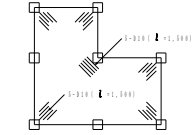


5) 定着長さ及び受け筋は、引き通すことができない場合は、下図により梁内に定着する。



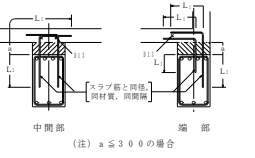
6. 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、下図により、補強筋を上端筋の下側に配置する。



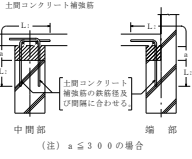
7. 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁と土間スラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強は、特記による。特記がなければ、下図による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋をするものをいう。



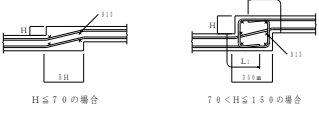
8. 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、特記による。なお、基礎梁との接合部は、下図による。



9. 段差のあるスラブの補強

150mm以下の段差のあるスラブの補強は、下図による。



階段の配筋

1. 片持ちスラブ形階段

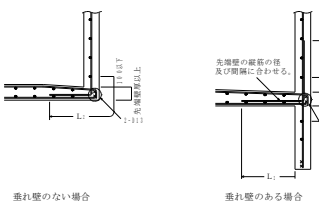
片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

片持ちスラブ形階段の基準配筋			
配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100@ 下 D13-200@	CS5	上 D10-200@ 下 D10-400@
	上 D13-150@ 下 D13-300@		上 D10, D13-200@ 下 —
CS2	上 D10, D13-150@ 下 D13-300@	CS6	上 D10, D13-200@ 下 —
	上 D10, D13-200@ 下 D10, D13-200@		上 D10-200@ 下 —
CS3	上 D10, D13-150@ 下 D10, D13-200@	CS7	上 D10-200@ 下 —
	上 D10, D13-200@ 下 D10-200@		上 D10-200@ 下 —

1. 先端の折曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

2. スラブに段差のない場合は、主筋を引き通してスラブに定着してもよい。

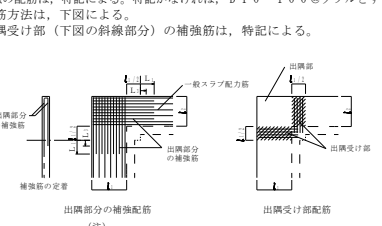
3. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。



4. 出隅部

1) 補強の配筋は、特記による。特記がなければ、D10-100@ダブルとする。配筋方法は、下図による。

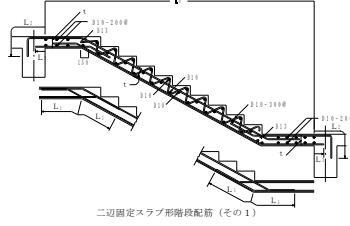
2) 出隅受け部 (下図の斜線部分) の補強筋は、特記による。



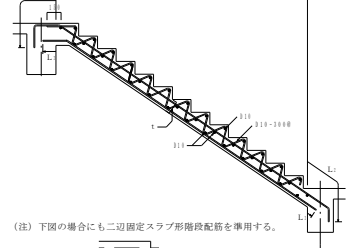
2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋は下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

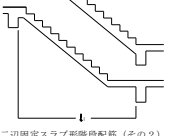
配筋種別	スラブ厚さt (mm)	上端筋、下端筋とも (全長)
KB1	150	D13-200@
KB2	150	D13-150@
KB3	150	D13-100@
KB4	150	D13, D10-150@
KB5	150	D10-150@
KB6	150	D10-150@
KB7	200	D10-150@



二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。



二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

梁貫通孔補強筋

1. 梁貫通孔は、次による。

1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。

2) 孔の径は、梁せいりの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。

3) 孔の上下方向の位置の限度は、下図による。

4) 孔の中心位置の限度は、柱及び直行する梁 (小梁) の面から、原則として、1.2D (Dは梁せい) 以上離す。

5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。

6) 縦筋及び下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。

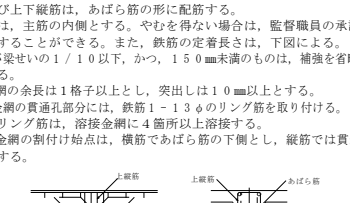
7) 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は、監督職員の承諾を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは、下図による。

8) 孔の径が梁せいりの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、補強を省略することができる。

9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。

10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。

11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

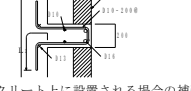


コンクリートブロック横壁との取合い

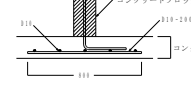
1. 控壁

1) 控壁の配置は、特記による。

2) 配筋は、下図による。



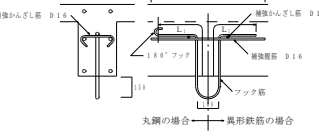
2. 横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、下図による。



機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは下表及び下図により、種別は特記による。

種別	A 種	B 種	C 種
フック筋	φ25又はφ25	φ22又はφ22	φ19又はφ19
曲げ内径直径 (mm)	150	150	150
横筋かんざし筋	1-311	1-311	1-311
補強筋 (mm)	D13, D10	D13, D10	D13, D10
吊上げ荷重 (kN)	5.0≦W≦3.0	3.0≦W≦1.0	1.0≦W



丸鋼の場合 異形鉄筋の場合

APA建築設計

一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号

一級建築士登録 第309704号 大津 健作

構造設計一級建築士 第2882号

(仮称) 特別養護老人ホームひかり

鉄筋工事仕様書 No. 2

アズ 建築 設計 事務所

一級建築士事務所 広島 19-1-1508号

一級建築士 第88163号 斉藤孝夫

R04.07.21

S-O3

図面及び仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成19年版）による。

材料名	
-----	--

	• SM490A	• SM490B	• SM490C
	• SM490VA	• SM490VB	

2. 工作上的注意

1. 巻尺の確認
鋼製巻尺は、JIS B7512（鋼製巻尺）の1級品を使用する。
確認は工事現場用（鉄骨製作用の基準巻尺を並べた状態）で一定の張力（50N程度）を与え、その誤差を読み取る。誤差は10m以下0.5mm以下とする。梁、気定温度以上の温度補正を行う。
2. 切断
鋼材の切断面は、指定されたものを除き、材軸に垂直とする。ガス切断による場合は、原則として自動ガス切断とする。厚さ13mm以上の鋼板は、せん断による切断とすることができる。ただし、主要部材の自由端（梁や柱のラゲージのり端等）及び溶接接合部には、せん断機を用いる。
切断に有害な凹み、まくれ、切り欠き、スラックの付着等が生じた場合は、修正するか又は取り除く。
3. 貫通穴
穴あけ加工は、製作工場でドリルあけとする。ただし、板厚13mm以上の場合は、せん断あけとすることができ。鉄筋の貫通穴径の最大値は、下表による。また、主筋の貫通穴（基礎梁を除く）は、最大の径に統一することができる。
- | 鉄筋の呼び名 | D10 | D13 | D16 | D19 | D22 | D25 | D29 | D32 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 鉄筋の貫通穴径 | 21 | 24 | 28 | 31 | 35 | 38 | 43 | 46 |
- （単位：mm）
- 設備工事等における配管等の貫通穴は、構造耐力上の制約について確認し、設計図又は工作図に従い加工する。
4. 梁のむくり
梁のむくり方は、設計図又は監督員の指示による。
5. 現況検査
標準構式の建築物の場合、行わない。ただし、曲率や90°以外の取り合い角度を有する建築物の場合溶接作業及び高力ボルトの締め付けが困難と判断される箇所が存在する場合、治まりが複雑で工作図から読み取ることが困難な箇所が存在する場合を行う。
6. その他
施工業者は、施工に先立ち施工計画書を提出し監督員の承認を受ける。

1. ボルト孔
ボルト孔の径は下表による。又、溶接部鉛直方向にボルト孔の径は、ボルト孔の径より下表による。

(注) 母座、鋼縁類の取付け用ボルトの場合は、 $d_1 + 1.0$ とすることができる。

2. ボルトの取付位置
- 組立後、ボルトの孔心が一致せずボルトが挿入できないものは、添え板等を取り替える。
3. 締め付け長さ
- 締め付け長さに加える長さ
- 普通ボルトの場合は、締め付け後ナットの外面に3山以上ねじ部が出るように決める。
- 高力ボルトの場合は、下表による。
- | | M12 | M16 | M20 | M22 | M24 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ねじの呼び | M12 | M16 | M20 | M22 | M24 |
| JIS形 | 25 | 30 | 35 | 40 | 45 |
| トルク値形 | 25 | 30 | 35 | 40 | 45 |
- (単位：mm)
-
- ①ナット部
②ネック部
③ボルトネジ部
- トルク形高力ボルト
4. 摩擦面の処理
- 摩擦面は、すべて係数値が0.45以上確保できるように、ミルスケールを平グラインダー掛け等により座金外径の2倍以上の幅を除去したのち、一様に錆を発生させたものとする。ただし、ショットブラスト又は

はグッドプラストにより、摩擦面の表面粗さを50 μm 以下に確保でき、監督官の承諾を受けた場合には納めを要しない。また、摩擦面は、摩擦力や低減させようものがあるが、監督官は付着しないよう保護する。浮き錆、脂、油、塗料、塵埃などが発生又は付着する場合は、組立に先立ち取り除く。

摩擦面に肌すくを生じる場合
接合部材の材厚の差等により1mmを超えら肌すきは、ファイバーを用いる。ファイバーは、鋼製とし、摩擦面は前項と同様に処理する。

締め付け及び確認用機器
締め付け及び確認用機器は、ボルトに適したもので、より点検整備されたものとする。トルクコントロール式電動レンチ等のものでトルク制御機能をもった機器は、毎日1回作業開始前10分間の誤差が所要求トルク値の $\pm 7\%$ 程度以内となるまで調整を行い、その結果を記録する。

4. 溶接工作上の注意

1. 施工管理技術者
- 溶接作業の施工管理技術者として、溶接施工管理技術者をおく。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。溶接施工管理技術者は、JIS S3410（溶接管理一任及び責任）による溶接管理を行能力のある者とする。又、工場製作要領書を提出し、監督員の承諾を受ける。
- 関係書の記載事項は、溶接技能者及び品質、製造設備の能力、使用材料、工作溶接（加工・手順・開発の形状・溶接工法等）、品質管理・検査計画とする。
- 材料溶接
- 鋼材の加工は、自動ガス切断又は機械加工とする。ただし、精度の不良なもの及び著しい凹凸のあるものは、修正する。
2. 仮付け
- 組立溶接の最小ビート長さは、下表による。その間隔は300～400mm程度とする。
- | 板厚 | 手溶接、平自動溶接を行う箇所 | 自動溶接を行う箇所 |
|------|----------------|-----------|
| 6以下 | 30 | 50 |
| 6を超え | 40 | 70 |
- （注）板厚が異なる場合は、厚い方の板厚とする。
4. 溶接施工
- 突合せ溶接で裏当てのない場合は、表面及び溶接を行った側、健全な溶接部が見れるまで裏はついでに裏溶接を行う。裏当て金の厚さ及びエンド部の長さは下表による。
- エンド部は、見え隠れしない疲労を考慮する必要があるとして突起された部分、配筋上支障となる部分、見え掛けとしない特設された部分を除き必ず除去したい。
- 隅肉溶接の有効長さの最小値を、隅肉サイズの10倍以上で、かつ、40mm以上とする。
- スカラー溶接半径は30mmを標準とする。

溶接部の試験
工場溶接、現場溶接の後試験を行う。試験は特記による。

5. 錆止め塗装

1. 鉄鋼面錆止め塗料の種類別は特記による。錆止め塗料の種類は1種、2種の別がある場合は、1回目を1種とす。また、鉄鋼面の素地ごしらえの種類は、C種とする。
 2. 次の部分は塗装しない。
 - (1) コンクリートに密着する部分及び埋め込まれる部分
 - (2) 高力ボルト摩擦接合部の摩擦面
 - (3) 工事現場溶接を行う部分の両側それぞれ100mm程度の範囲及び超音波探傷試験に支障を及ぼす範囲
 - (4) 密閉される閉鎖形断面の内部
 - (5) ビン、ローラー等密着する部分及び反転又は摺動面で削り仕上げした部分
 - (6) 組立によって密合せとなる部分
 - (7) 耐火板を除く耐火被覆材の接合する面
 3. 工事現場溶接を行う場合でも、溶接するまでに著しい錆を発生するおそれのある場合は、溶接に無害な防錆処理を行う。
 4. 工事現場塗装
 - (1) 現場接合部の素地ごしらえは、C種とし、工場塗装と同種の錆止めペイントを使用して塗装を施す。
 - (2) 塗膜の損傷した部分は活膜を残して除去し、錆の生じた部分は手工具を用いて旧塗膜を除去し、いずれも錆止め塗料で補修する。
6. 積方

1. 建方

- 完了するまで正確、且その他の荷重を適切に安全な方法とする。
- 仮ボルトは、本接合のボルトと同軸線の普通ボルト等と異質のないものを用い、締付け本数は、1群のボルト数の3/3以上、かつ、2本以上とする。
- 柱及び梁と垂直接合部を含む、全ての接合部用ボルトは、全数を締付けする。
- 本接合に先立ち、計画を修正し、大入直しを行う。
- 鉄骨・鉄材・鋼材、機械等の重き物を積載する場合や、特殊な大荷重を負担させる場合は、監督官の承諾を受けて、適切な補強を行う。
- 吊上げの際に曲がりや歪み部材は、適切な補強を行う。
- 作業が完了した時点で、形状及び寸法精度について確認し、監督官の検査を受ける。

7. 溶接継手の種類別開先形状

1. 突合せ溶接
(1) 突合せ継手 (B) の開先基準

(2) T形継手 (T) の開先基準

(3)かど継手 (L) の開先基準H (アーク手溶接、ガス
溶接、電気溶接)

2. 隅肉溶接

22






1 (片面溶接)



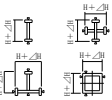





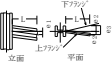




(2) 隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	28	30	32
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	11	11	12	10	11	11	12	13	13	14	14	15	16	17	18	19



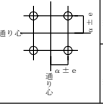




Arti, Dili, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2013

-


名 称	図	製作管理許容差	限界許容差	備考
(1) はりの長さ △L		$-3mm \leq \Delta L \leq +3mm$	$-5mm \leq \Delta L \leq +5mm$	
(2) 柱の長さ △L	 	$L < 10m$ $-3mm \leq \Delta L \leq +3mm$ $L \geq 10m$ $-4mm \leq \Delta L \leq +4mm$	$L < 10m$ $-5mm \leq \Delta L \leq +5mm$ $L \geq 10m$ $-6mm \leq \Delta L \leq +6mm$	
(3) 筋 高 △L	 	$-3mm \leq \Delta L \leq +3mm$	$-5mm \leq \Delta L \leq +5mm$	

名 称	図	製作管理許容差	限界許容差	備 考
(4) はりの曲り e		$e \leq \frac{1}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{1.5L}{1000}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	
(5) 柱の曲り e		$e \leq \frac{1}{1500}$ かつ $e \leq 5\text{mm}$	$e \leq \frac{L}{1000}$ かつ $e \leq 8\text{mm}$	
(6) せ い △H		H < 800mm ~2mm ≤ △H ≤ 2mm H ≥ 800mm ~3mm ≤ △H ≤ 3mm	H < 800mm ~3mm ≤ △H ≤ 3mm H ≥ 800mm ~4mm ≤ △H ≤ 4mm	
(7) 幅 △B		~2mm ≤ △B ≤ 2mm	~3mm ≤ △B ≤ 3mm	
(8) 箱形断面の直角角度 e		接合部 $e \leq H/1000$ かつ $e \leq 3\text{mm}$ 一般部 $e \leq 2H/1000$ かつ $e \leq 4\text{mm}$	接合部 $e \leq 3H/2000$ かつ $e \leq 5\text{mm}$ 一般部 $e \leq 3H/1000$ かつ $e \leq 6\text{mm}$	
(9) H形断面の直角 e		接合部 $e \leq H/1000$ かつ $e \leq 1.0\text{mm}$ 一般部 $e \leq 2H/1000$ かつ $e \leq 2\text{mm}$	接合部 $e \leq 3H/2000$ かつ $e \leq 1.5\text{mm}$ 一般部 $e \leq 3H/1000$ かつ $e \leq 3\text{mm}$	
(10) ウェブの心ずれ e		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	
(11) ウェブの曲り e		$e \leq H/150$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ $e \leq B/150$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ ただし、t 5mmには適用しない	$e \leq H/1000$ かつ $e \leq 4\text{mm}$ $e \leq B/1000$ かつ $e \leq 6\text{mm}$ ただし、t 5mmには適用しない	
(12) 仕口部の角度 e		$e_1, e_2 \leq L/300$ かつ $e_1, e_2 \leq 3\text{mm}$ $e_1 \leq 4\text{mm}$	$e_1, e_2 \leq L/200$ かつ $e_1, e_2 \leq 5\text{mm}$ $e_1 \leq 6\text{mm}$	
(13) 仕口部の長さ △L		$-3\text{mm} \leq \Delta L \leq 3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \Delta L \leq 5\text{mm}$	
(14) 柱のねじれ δ		$\delta \leq \frac{6H}{1000}$ かつ $\delta \leq 5\text{mm}$	$\delta \leq \frac{9H}{1000}$ かつ $\delta \leq 9\text{mm}$	
(15) メタルタッチ e		$e \leq \frac{1.5H}{1000}$	$e \leq \frac{2.5H}{1000}$	
(16) ベースプレートのおれ及びへみ e		$e \leq 2\text{mm}$	$e \leq 3\text{mm}$	

2. 工事現場

(1) 建物の倒れ e		$e \leq H/4000 + 7\text{mm}$ かつ $e \leq 30\text{mm}$	$e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$	
(2) 建物のわん曲 e		$e \leq L/4000$ かつ $e \leq 20\text{mm}$	$e \leq L/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$	
(3) 通り心とアンカボルトの位置のずれ e		※A種 $-3\text{mm} \leq e \leq +3\text{mm}$ ※B種 $-5\text{mm} \leq e \leq +5\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq e \leq +5\text{mm}$ $-8\text{mm} \leq e \leq +8\text{mm}$	構造用 アンカーボルト 建方用 アンカーボルト
(4) 柱すえ付け面の高さ $\angle H$		$-3\text{mm} \leq \angle H \leq +3\text{mm}$	$-5\text{mm} \leq \angle H \leq +5\text{mm}$	
(5) 工事現場手摺の階高 $\angle H$		$-5\text{mm} \leq \angle H \leq +5\text{mm}$	$-8\text{mm} \leq \angle H \leq +8\text{mm}$	
(6) はりの水平度 e		$e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq L/700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	
(7) 柱の倒れ e		$e \leq \frac{H}{1000}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$	$e \leq \frac{H}{700}$ かつ $e \leq 15\text{mm}$	

※A種の場合は、アンカーボルトに耐力を期待する場合、B種は耐力を期待しない場合

A P A 建築設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号 一級建築士登録 第309704号 大津 健作 構造設計一級建築士 第2882号	(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.07.21
	鉄骨工事仕様書	S-O4
	 アパズ 建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-158号 一級建築士 第08163号 斉藤孝夫

1. 構造概要

国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット） ※（ ）はミリメーカーと加工工場を示す。			
MBLT-0116	M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場）	MBLT-0180	M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0144	M30～M48（JFE鋼網・アイエスケー中島工場）	MBLT-0181	M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）
MBLT-0164	M52～M76（JFE鋼網・アイエスケー前橋工場）		

2020年8月作成

(東京支店) TEL 03-5251-5545
FAX 03-5251-5226

3. アンカー用ボルトセット

以上)		(mm)		
呼径	品番	Ba	ta	d
M24	P1	50	9	26
M30	P2	65	12	32
M36	P3	75	16	38
M42	P4	85	19	44
M48	P5	95	22	50
M52	P6	115	25	54
M56	P7	120	25	58
M60	P8	130	28	62
M64	P9	135	32	66
M68	PA	140	32	70
M72	PB	150	36	74
M76	PC	155	36	78

							(mm)
品番	呼び径	ピッチ	db			L	Ls
			1SB740C	1SB740E	1SB800B		
A1	M24	3.0	22.0	-	-	595	100
A22	M30	3.5	28.0		-	685	115
A23						785	
A32						725	
A33	M36	4.0	33.15	33.0	-	775	130
A34						825	
A35						925	
A43	M42	4.5	38.92	38.8	-	945	145
A44						1045	
A52	M48	5.0	45.0		-	1015	160
A53						1115	
A62	M52	5.0	-		49.0	1200	185
A72	M56	5.5	-		52.0	1265	195
A81	M60	5.5	-		56.0	1230	205
A82						1330	
A91	M64	6.0	-		60.0	1295	215
A92						1395	
AA1	M68	6.0	-		64.0	1360	225
AA2						1460	
AB1	M72	6.0	-		67.8	1425	235
AC1	M76	6.0	-		71.8	1490	245

(mm)				
呼び径	品番	d1	d2	tw
M24	C1	52	25	9
M30	C2	58	31	12
M36	C3	68	37	16
M42	C4	78	43	19
M48	C5	90	50	19
M52	C6	100	54	25
M56	C7	108	58	28
M60	C8	114	62	32
M64	C9	120	66	36
M68	CA	128	70	36
M72	CB	134	74	36
M76	CC	140	78	36

(mm)				
呼径	S	d _i	m _i	t _i
M24	36	22.5	5	1.6
M30	46	28.9	7	2.0
M36	55	33.6	8	2.0
M42	65	39.2	9	2.3
M48	75	45.7	10	2.3
M52	80	49.9	11	2.8
M56	85	52.6	12	2.8
M60	90	56.6	12	3.2
M64	95	60.3	13	3.2
M68	100	64.3	14	3.2
M72	105	68.2	14	3.6
M76	110	72.2	15	3.6

2. ベースプレート

図1. 形状と寸法

図1は、壁に板を接続するための3種類のボルト配置の断面図と平面図を示しています。各図は「上面」と「下面」の2つの視点から描かれています。

- 4本ボルトタイプ (左):** 上面には4つのボルト（ $4-\phi 8h$ 孔）が配置されています。中心マークが示されています。下面には「溶接肉盛り」の箇所が示されています。
- 8本ボルトタイプ (中):** 上面には8つのボルト（ $8-\phi 8h$ 孔）が配置されています。中心マークが示されています。
- 12本ボルトタイプ (右):** 上面には12つのボルト（ $12-\phi 8h$ 孔）が配置されています。中心マークが示されています。

各図の寸法は、C1、C2、D、t、および中心マークの位置で表されています。

※ベースプレートは
 *中心マーク*のある面が上面（鋼管取付面）
 *溶接突起*のある面が下面（底面）

※柱材のめっき仕様について
柱材をめっきする場合は、弊社までご相談ください。

4. コンクリート柱形

ベースモルタル厚
30mm~50mm

Lu

La

50

H

Lx

（杭基礎の場合は、最底付法抽出法とする。）

- ・主筋頂部のフックは、設けないことを標準とする。
- ・トップフープは、シングルを標準とする。
- ・ l_d は、使用する主筋径の10倍以上とする。
- ・主筋、帯筋の径・本数は、標準柱形の場合を示す。
- ・柱形の幅（bc）を標準柱形より拡げた場合、検討が必要。

柱形を拡げる場合や、柱芯が異なる場合は、弊社までご相談ください。

- ・柱形の配筋が標準の場合
基礎立上り高さ(Hs)は、250mm以下とする。
- ・立上り高さ(Hs)が250mmを超える場合は、
検討が必要となるため、弊社までご相談ください。

5. 施工

中心Vカット

ゲージアレート

アンカーボルト据付図

11. (充てん型枠脱型・廃棄)

6. 施工管理

- ・ISベースの施工（アンカーボルトの据付及びベースモルタルの充てん）は、弊社が認定した施工者が行う。
- ・施工は、施工マニュアルに準じて行い、施工後「チェックシート」により許容範囲内にあることを確認する。
- ・材料は弊社にて支給する。支給品以外の材料を使用した場合、ISベースの性能を保証できない場合がある。
- ・アンカー用ボルトセットは大臣認定材である。形状・寸法・材質の変更、切り欠き・溶接などの加工は認められない。

ISベース柱脚工法設計・施工標準図 (SH:角型鋼管用 非保有耐力接合タイプ) 2/3																								
一般財団法人 日本建築センター 鋼構造評定委員会評定 BCJ評定－ST0282-01（2019年9月20日）																								
国土交通大臣認定番号（アンカー用ボルトセット） ※（ ）はミルメーカーと加工工場を示す。												適用柱材 (F値=235N/mm ² , 275N/mm ² , 295N/mm ² , 325N/mm ²) □150×150～□550×550												
MBLT-0116 M24～M48（朝日工業・アイエスケー中島工場） MBLT-0180 M24～M48（朝日工業・アイエスケー前橋工場）												2020年8月作成												
MBLT-0144 M30～M48（JFE条鋼・アイエスケー中島工場） MBLT-0181 M30～M48（JFEスチール・アイエスケー前橋工場）																								
MBLT-0164 M52～M76（JFE条鋼・アイエスケー前橋工場）																								
採用	柱脚記号	鋼管サイズ	適用柱サイズ ※柱材は、指定JIS規格品または大臣認定品とする。				ベースプレート					アンカーボルト			コンクリート柱形（標準）							最低寸法		
			柱材の基準強度 (N/mm ²)				D	C1	C2	dh	t	本数・呼び径 (品番)	Lu	La	bc (最小～最大)	主筋 (径・本数を選択する)			帯筋	Lx	コンクリート強度 (N/mm ²)			
			235	275	295	325																		
●	SH151	□150	t = 12	-	8 ≦ t ≦ 12	9 ≦ t ≦ 12	290	210	-	36	25	4-M24 (A1)	125	410	500～530	12-D16	8-D19	8-D22	D13φ150	10d以上	21以上	550以上		
	SH171	□175	9 ≦ t ≦ 12	-	6 ≦ t ≦ 12	6 ≦ t ≦ 12	310	230	-	36	25	4-M24 (A1)	125	410	520～530	12-D16	8-D19	8-D22	D13φ150	10d以上	21以上	550以上		
	SH172		t = 12	-	t = 12	9 ≦ t ≦ 12	320	230	-	42	32	4-M30 (A22)	135	480	540～620	12-D19	8-D22	8-D25	D13φ150	10d以上	21以上	650以上		
	SH201	□200	8 ≦ t ≦ 16	6 ≦ t ≦ 16	6 ≦ t ≦ 16	6 ≦ t ≦ 16	340	260	-	36	25	4-M24 (A1)	125	410	550～650	12-D19	12-D22	8-D25	D13φ150	10d以上	21以上	550以上		
	SH202		12 ≦ t ≦ 16	9 ≦ t ≦ 16	8 ≦ t ≦ 16	8 ≦ t ≦ 16	350	260	-	42	32	4-M30 (A22)	135	480	570～650	12-D19	12-D22	12-D25	D13φ150	10d以上	21以上	650以上		
	SH203		t = 16	12 ≦ t ≦ 16	12 ≦ t ≦ 16	12 ≦ t ≦ 16	360	260	-	50	36	4-M36 (A32)	155	490	580～750	16-D19	16-D22	12-D25	D13φ150	10d以上	21以上	650以上		
SH204	-		t = 16	t = 16	t = 16	390	300	170	42	36	8-M30 (A23)	135	580	600～750	16-D19	12-D22	12-D25	D13φ150	10d以上	21以上	750以上			
SH251	□250	6 ≦ t ≦ 19	6 ≦ t ≦ 16	6 ≦ t ≦ 19	6 ≦ t ≦ 12	390	310	-	36	25	4-M24 (A1)	125	410	600～750	16-D19	16-D22	12-D25	D13φ150	10d以上	21以上	550以上			
SH252		8 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 16	6 ≦ t ≦ 19	6 ≦ t ≦ 19	400	310	-	42	28	4-M30 (A22)	135	480	620～750	16-D19	16-D22	12-D25	D13φ150	10d以上	21以上	650以上			
SH253		12 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 16	9 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 19	420	310	-	50	32	4-M36 (A33)	155	540	630～840	20-D19	16-D22	16-D25	D13φ150	10d以上	21以上	700以上			
SH254		16 ≦ t ≦ 19	12 ≦ t ≦ 16	12 ≦ t ≦ 19	12 ≦ t ≦ 19	450	350	220	42	36	8-M30 (A23)	135	580	650～840	20-D19	16-D22	16-D25	D13φ150	10d以上	21以上	750以上			
SH255	□300	-	-	16 ≦ t ≦ 19	16 ≦ t ≦ 19	460	350	200	50	40	8-M36 (A34)	155	590	660～840	24-D19	20-D22	16-D25	D13φ150	10d以上	21以上	750以上			
SH301		6 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 19	6 ≦ t ≦ 22	6 ≦ t ≦ 16	450	360	-	42	28	4-M30 (A23)	135	580	670～750	16-D19	12-D22	12-D25	D13φ100	10d以上	21以上	750以上			
SH302		9 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 19	8 ≦ t ≦ 22	8 ≦ t ≦ 19	460	360	-	50	32	4-M36 (A33)	155	540	680～840	20-D19	16-D22	16-D25	D13φ100	10d以上	21以上	700以上			
SH303		12 ≦ t ≦ 19	12 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 19	490	400	270	42	36	8-M30 (A23)	135	580	700～840	20-D19	20-D22	16-D25	D13φ100	10d以上	21以上	750以上			
SH304		t = 19	16 ≦ t ≦ 19	14 ≦ t ≦ 22	16 ≦ t ≦ 19	500	400	250	50	40	8-M36 (A35)	155	690	710～980	-	20-D22	16-D25	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH305		-	t = 19	19 ≦ t ≦ 22	-	550	420	250	58	50	8-M42 (A43)	175	680	760～1070	-	24-D22	20-D25	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
●	SH351	□350	9 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 19	9 ≦ t ≦ 16	500	410	-	42	28	4-M30 (A23)	135	580	720～840	20-D19	16-D22	12-D25	D13φ100	10d以上	21以上	750以上		
SH352	12 ≦ t ≦ 22		9 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 25	9 ≦ t ≦ 22	550	460	330	42	36	8-M30 (A23)	135	580	760～1000	28-D19	24-D22	20-D25	D13φ100	10d以上	21以上	750以上			
SH353	16 ≦ t ≦ 22		12 ≦ t ≦ 22	12 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 22	570	470	320	50	40	8-M36 (A35)	155	690	780～1070	-	24-D22	20-D25	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH354	t = 22		16 ≦ t ≦ 22	16 ≦ t ≦ 25	16 ≦ t ≦ 22	590	480	310	58	45	8-M42 (A43)	175	680	810～1160	28-D22	24-D25	20-D29	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH355	-	t = 22	22 ≦ t ≦ 25	t = 22	630	500	310	66	55	8-M48 (A52)	195	720	910～1240	32-D22	28-D25	24-D29	D13φ100	10d以上	21以上	900以上				
SH356	-	t = 22	22 ≦ t ≦ 25	t = 22	630	500	310	66	70	8-M48 (A52)	195	720	910～1240	32-D22	28-D25	24-D29	D13φ100	10d以上	21以上	900以上				
SH401	□400	9 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 19	570	470	-	50	32	4-M36 (A35)	155	690	800～920	24-D19	20-D22	16-D25	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH402		9 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 25	9 ≦ t ≦ 25	9 ≦ t ≦ 22	600	510	380	42	36	8-M30 (A23)	135	580	810～1000	28-D19	24-D22	24-D25	D13φ100	10d以上	21以上	750以上			
SH403		16 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 25	620	520	370	50	40	8-M36 (A35)	155	690	840～1120	28-D22	20-D25	20-D29	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH404		19 ≦ t ≦ 25	16 ≦ t ≦ 25	14 ≦ t ≦ 25	16 ≦ t ≦ 25	640	530	360	58	45	8-M42 (A44)	175	780	860～1230	32-D22	24-D25	20-D29	D13φ100	10d以上	21以上	950以上			
SH405		t = 25	19 ≦ t ≦ 25	19 ≦ t ≦ 25	19 ≦ t ≦ 25	680	550	360	66	55	8-M48 (A53)	195	820	940～1260	36-D22	28-D25	24-D29	D13φ100	10d以上	21以上	1000以上			
SH406		-	t = 25	t = 25	t = 25	810	620	430	66	70	8-M48 (A53)	195	820	1060～1260	-	36-D25	32-D29	D13φ100	10d以上	21以上	1000以上			
SH451	□450	9 ≦ t ≦ 25	12 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 22	9 ≦ t ≦ 16	620	520	-	50	32	4-M36 (A35)	155	690	850～980	28-D19	20-D22	16-D25	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH452		9 ≦ t ≦ 32	12 ≦ t ≦ 28	9 ≦ t ≦ 25	9 ≦ t ≦ 22	650	560	430	42	36	8-M30 (A23)	135	580	870～1110	28-D22	24-D25	24-D29	D13φ100	10d以上	21以上	750以上			
SH453		12 ≦ t ≦ 32	12 ≦ t ≦ 32	9 ≦ t ≦ 28	9 ≦ t ≦ 28	670	570	420	50	40	8-M36 (A35)	155	690	890～1160	28-D22	24-D25	20-D29	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH454		16 ≦ t ≦ 32	12 ≦ t ≦ 32	12 ≦ t ≦ 28	12 ≦ t ≦ 32	690	580	410	58	45	8-M42 (A44)	175	780	910～1240	32-D22	28-D25	20-D29	D13φ100	10d以上	21以上	950以上			
SH455		22 ≦ t ≦ 32	16 ≦ t ≦ 32	16 ≦ t ≦ 28	16 ≦ t ≦ 32	730	600	410	66	55	8-M48 (A53)	195	820	960～1260	32-D25	28-D29	24-D32	D13φ100	10d以上	21以上	1000以上			
SH456		28 ≦ t ≦ 32	22 ≦ t ≦ 32	19 ≦ t ≦ 28	19 ≦ t ≦ 32	730	600	410	66	80	12-M48 (A52)	205	720	1020～1260	36-D25	32-D29	28-D32	D13φ100	10d以上	21以上	900以上			
SH501	□500	12 ≦ t ≦ 38	12 ≦ t ≦ 32	9 ≦ t ≦ 28	9 ≦ t ≦ 25	720	620	470	50	40	8-M36 (A35)	155	690	940～1240	32-D22	28-D25	24-D29	D13φ100	10d以上	21以上	850以上			
SH502		16 ≦ t ≦ 38	12 ≦ t ≦ 36	12 ≦ t ≦ 28	12 ≦ t ≦ 32	740	630	460	58	45	8-M42 (A44)	175	780	970～1260	28-D25	24-D29	20-D32	D13φ100	10d以上	21以上	950以上			
SH503		22 ≦ t ≦ 38	19 ≦ t ≦ 36	16 ≦ t ≦ 28	19 ≦ t ≦ 38	800	660	430	70	55	8-M52 (A62)	235	850	1050～1260	40-D25	32-D29	28-D32	D13φ100	10d以上	21以上	1050以上			
SH504		32 ≦ t ≦ 38	25 ≦ t ≦ 36	25 ≦ t ≦ 28	25 ≦ t ≦ 38	870	680	420	80	65	8-M60 (A82)	255	950	1140～1260	44-D25	36-D29	28-D32	D13φ100	10d以上	21以上	1150以上			
SH505		-	32 ≦ t ≦ 36	t = 28	28 ≦ t ≦ 38	960	760	500	80	80	8-M60 (A82)	255	950	1280～1790	52-D25	40-D29	36-D32	D16φ100	10d以上	21以上	1150以上			
SH506		-	t = 36	-	36 ≦ t ≦ 38	960	690	410	88	90	8-M68 (AA2)	275	1050	1310～1730	48-D25	40-D29	32-D32	D16φ100	10d以上	21以上	1300以上			
SH551	□550	12 ≦ t ≦ 40	16 ≦ t ≦ 36	12 ≦ t ≦ 28	9 ≦ t ≦ 28	790	680	510	58	45	8-M42 (A44)	175	780	1040～1260	40-D22	32-D25	28-D29	D13φ100	10d以上	21以上	950以上			
SH552		16 ≦ t ≦ 40	16 ≦ t ≦ 40	12 ≦ t ≦ 28	12 ≦ t ≦ 38	830	700	510	66	50	8-M48 (A53)	195	820	1090～1260	40-D25	32-D29	28-D32	D13φ100	10d以上	21以上	1000以上			
SH553		25 ≦ t ≦ 40	19 ≦ t ≦ 40	19 ≦ t ≦ 28	19 ≦ t ≦ 40	880	730	490	74	60	8-M56 (A72)	245	900	1150～1260	-	36-D29	28-D32	D13φ100	10d以上	21以上	1100以上			
SH554		32 ≦ t ≦ 40	25 ≦ t ≦ 40	25 ≦ t ≦ 28	25 ≦ t ≦ 40	920	750	480	84	70	8-M64 (A91)	265	900	1280～1740	48									

QLデッキ合成スラブ設計・施工標準

J F E 建 材
株 式 会 社

QLデッキ合成スラブの設計・施工は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、(社)日本鉄鋼連盟「デッキプレート構造設計・施工規準-2004」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

設 計

材料／デッキプレート			[ISO 9001認証取得]	
デッキプレート種類		板厚 (mm)	表 面 処 理	
Q Lデッキ	■ Q L 99-50 □ Q L 99-75	■ 1.2 □ 1.6	■裏面防錆処理(一次塗装) Q L プライマー(P) □亜鉛メッキ(G) [□Z12 □Z27] □ZAM(高耐食溶融めっき鋼板) [□K27 □] □無し()	
	Q Lセルラー	□ G K X-50 □ G K X-75	□ 1.2 □ 1.6	亜鉛メッキ Z 27 限定
材 質 J I S G 3 3 5 2 に 定 め る S D P 1 T、S D P 2、S D P 2 G				

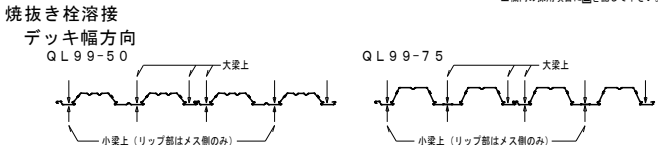
材料/コンクリート		種 類	
		■普通コンクリート	□軽量コンクリート (□1種 □2種)
設計基準強度		□18	■21 □ () N/mm ²
厚さ(デッキ山上)		■60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □ () mm	

材料/溶接金網・異形鉄筋		■溶 接 金 網	
		JIS G 3551	■φ6-150×150 □φ6-100×100
		□異形鉄筋	JIS G 3112、3117 □D10-@200 □ ()

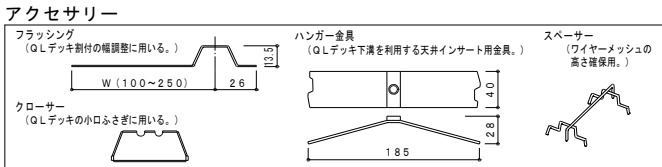
接 合		■焼抜き栓溶接	
		□打込み板	下記焼抜き栓溶接の項による
		□頭付きスタッド	別添打込み板の仕様による
		□その他	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22

耐 火		1 時 間	
連 続 支 持		■FP060FL-9095	□FP120FL-9107
単 純 支 持		□FP060FL-9101	□FP120FL-9113
そ の 他		□ ()	□ ()
指定なし		□ ()	□ ()

特 記		支 保 工 有 無	
		■無	□有
		その他：	



デッキスパン方向	
「QLデッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。	
$Aw = \frac{1.5Qa}{Qd}$	
Qa : 焼抜き栓溶接1個あたりの長期許容せん断力 (N) Qd : 設計最大せん断力 (N/mm) Aw : 焼抜き栓溶接ピッチ	
$Aw = (200) \text{ mm}$	
(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要	



施

耐 火 仕 様

【連続支持合成スラブ】		【単純支持合成スラブ】	
支 持 梁	鉄骨梁 及び 大梁、鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種)	支 持 梁	鉄骨梁 又は 鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート

【連続支持合成スラブ】		【単純支持合成スラブ】	
支 持 梁	鉄骨梁 及び 大梁、鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)	支 持 梁	鉄骨梁 又は 鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート

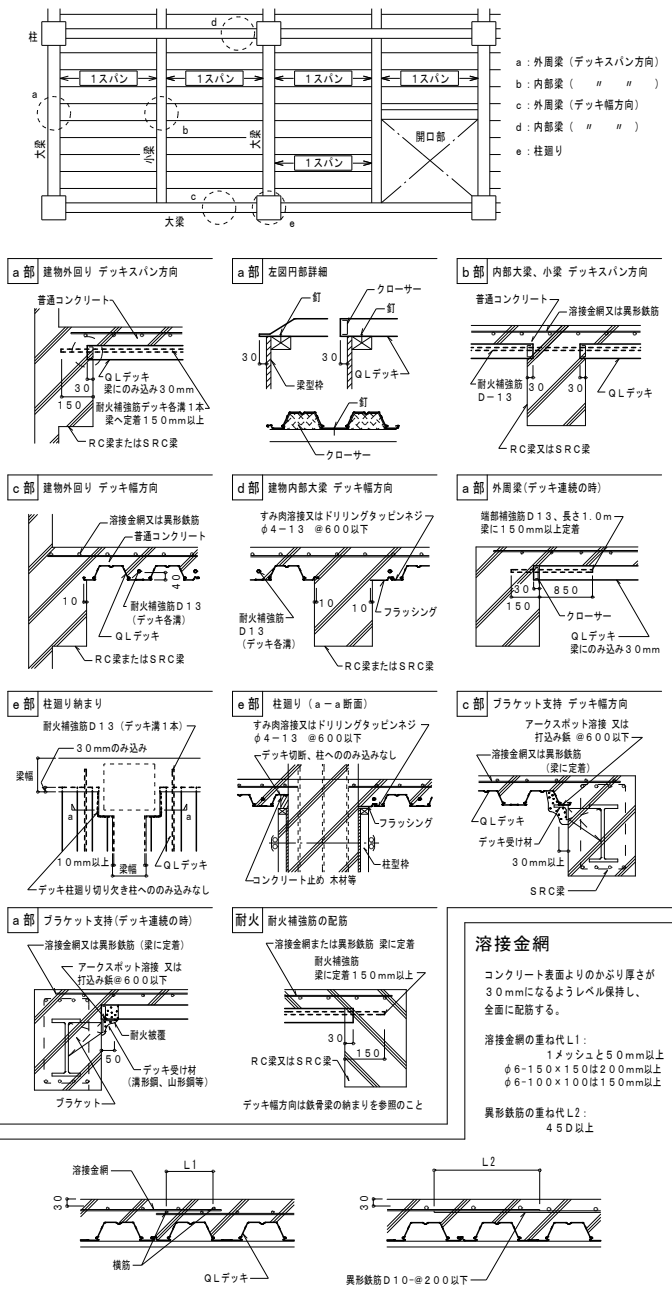
【連続支持合成スラブ】		【単純支持合成スラブ】	
支 持 梁	鉄骨梁 及び 大梁、鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)	支 持 梁	鉄骨梁 又は 鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート

【連続支持合成スラブ】		【単純支持合成スラブ】	
支 持 梁	鉄骨梁 及び 大梁、鉄筋コンクリート梁又は鉄骨鉄筋コンクリート梁、小梁：鉄骨梁 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)	支 持 梁	鉄骨梁 又は 鉄骨鉄筋コンクリート梁の場合 コンクリート：設計基準強度18 N/mm ² 以上の普通コンクリート、及び、軽量コンクリート (1種・2種) 耐火補強筋：D13 (デッキプレート各溝≧300)
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
耐火時間	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート
	普通コンクリート	普通コンクリート	普通コンクリート
	軽量コンクリート	軽量コンクリート	軽量コンクリート

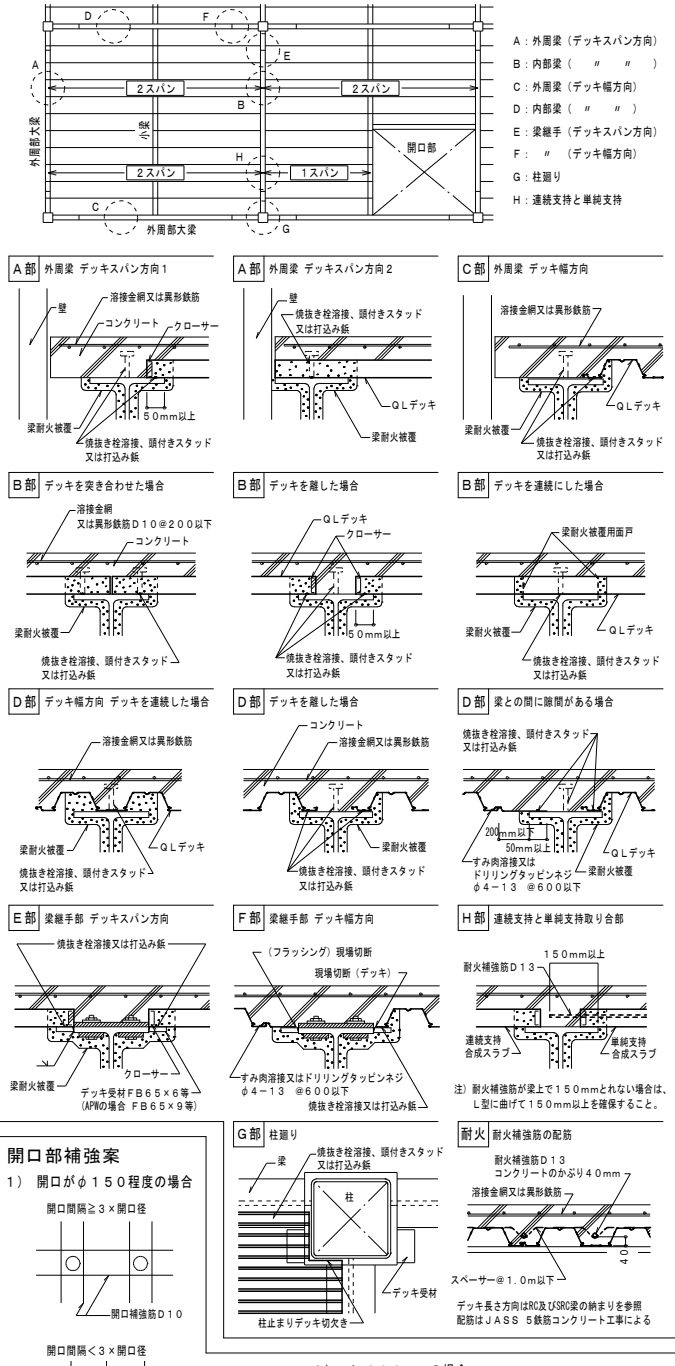
付帯条件 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上にわたって連続的に小ぶり等によって、ほぼ等間隔に支持されるものとする。

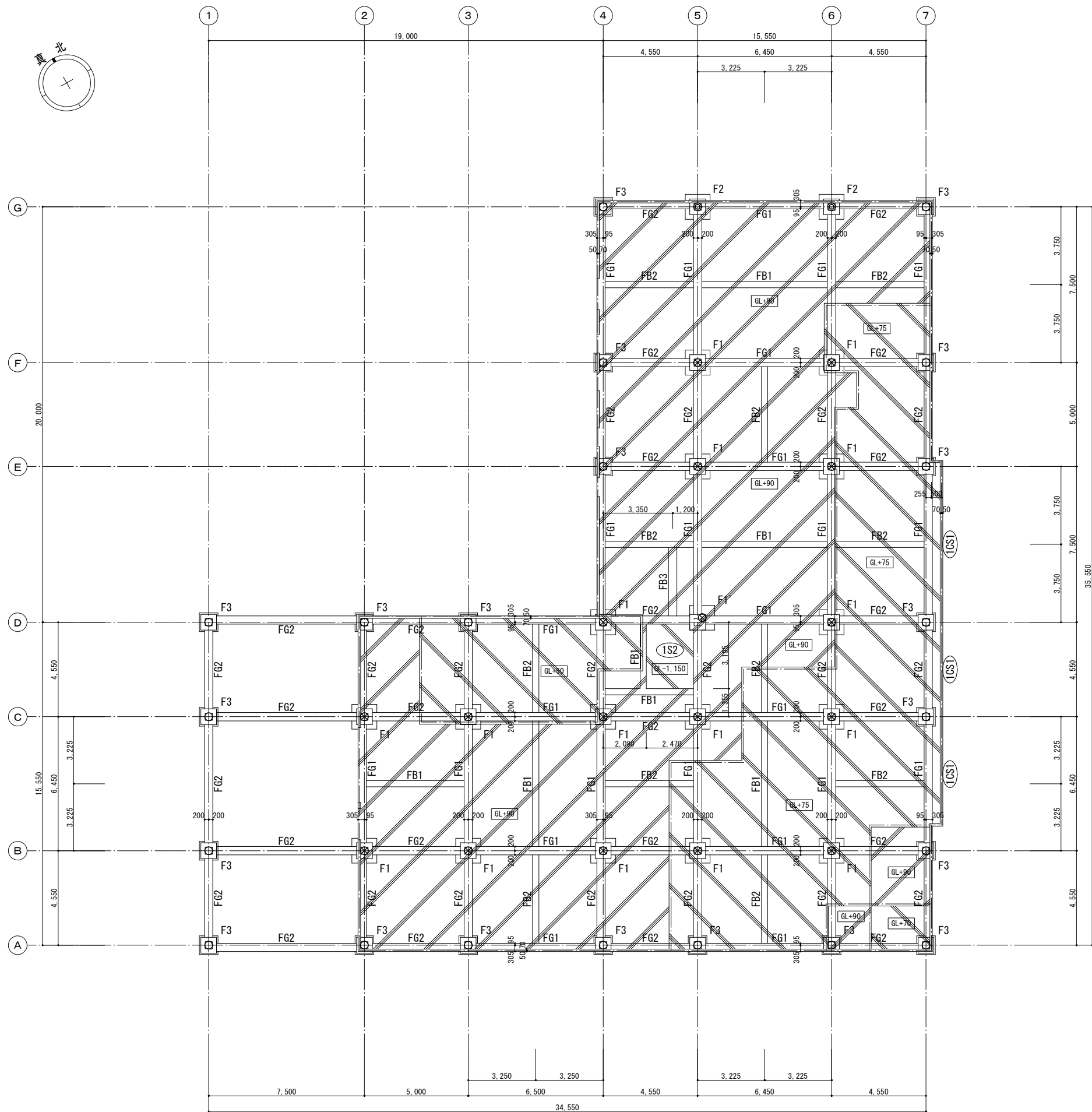
標 準 納 ま り

支持梁：鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート梁



支持梁：鉄骨梁





1階柱2階梁伏図 S=1/150

※特記なきスラブは全て(1S2)とする。

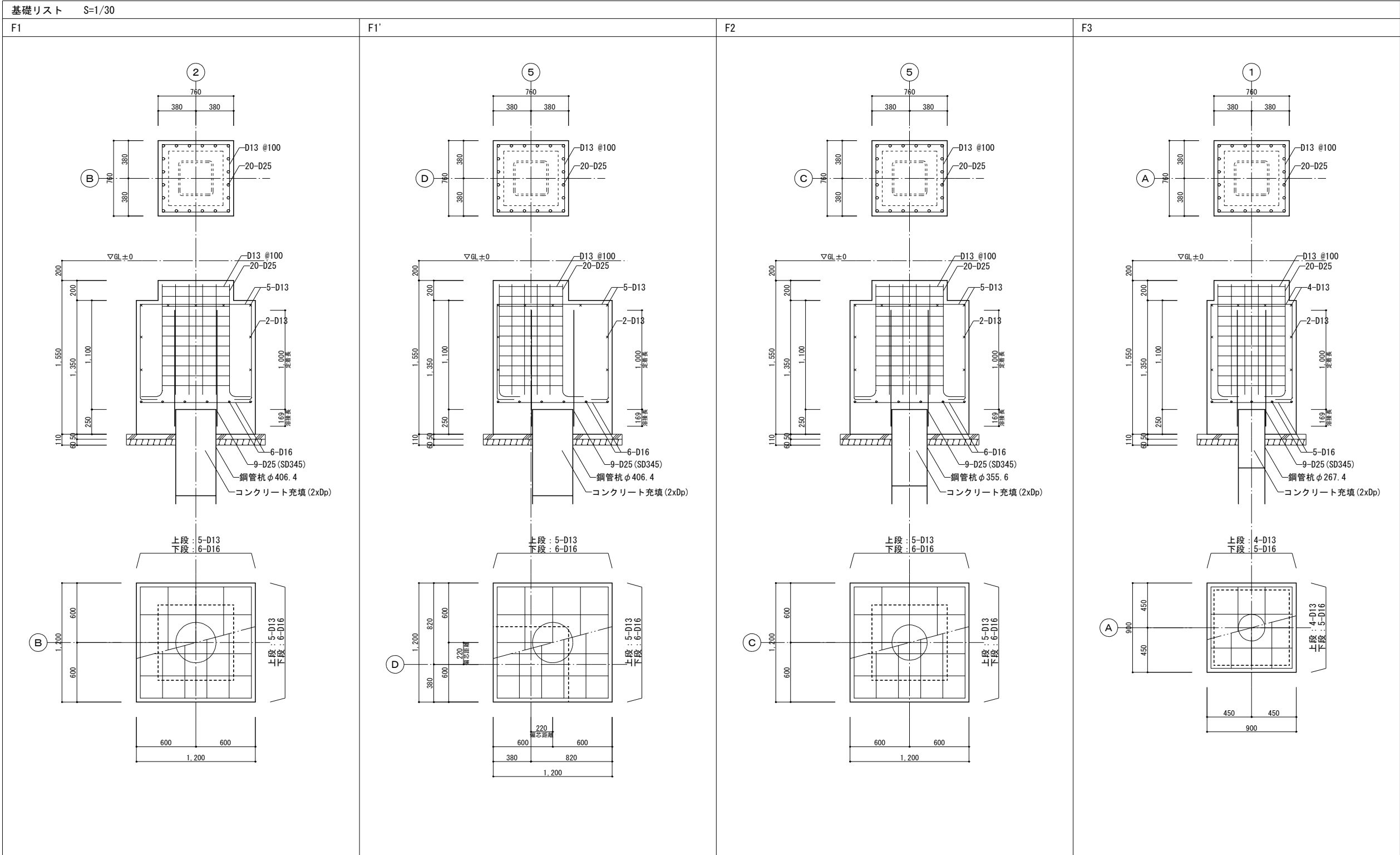
回転圧入鋼管杭 ケンマⅡ工法

	杭径 D (mm)	外径 Dw (mm)	杭長 L (m) (下杭+上杭)	下杭		上杭		杭本数 (set)	長期支持力 (kN)
				t (mm) 長さ (m)	材質	t (mm) 長さ (m)	材質		
⊗	406.4	1000	11.30	9.5 6.00	STK490	12.7 5.30	STK490	17	1295.0
⊙	355.6	900	11.30	9.5 6.00	STK490	12.7 5.30	STK490	2	1049.0
○	267.4	800	11.30	8.0 6.00	STK490	12.7 5.30	STK490	21	829.0

A3→71%印刷

APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.09.12
基礎伏図 S=1/100	S-O 8
アズ 建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-1508号 一級建築士 第88163号 斉藤孝夫

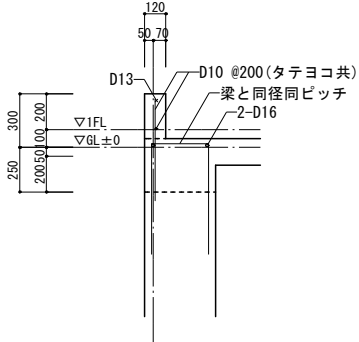


A3→71%印刷

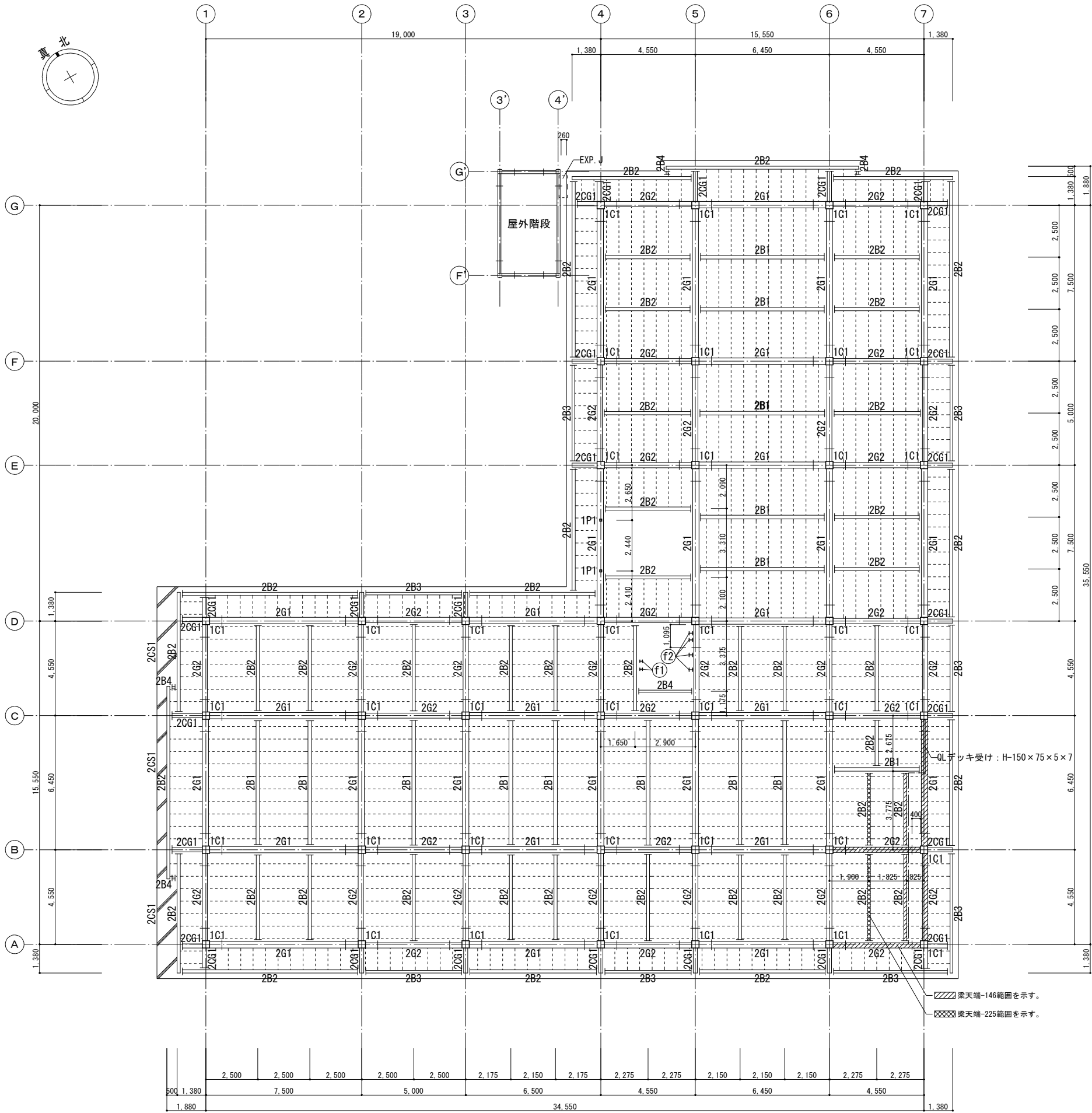
APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.09.12
基礎詳細図 S=1/30	S-O9
アズ建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第88163号 斉藤孝夫

地中梁リスト S=1/30							
記 号	FG1	FG2		FB1	FB2	FB3	
部 位	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	増打ち・立上り
断 面							
主 筋	5-D25/5-D25	3-D25/3-D25		3-D22/3-D22	3-D22/3-D22	2-D22/2-D22	
あばら筋	D10 @150	D10 @150		D10 @200	D10 @200	D10 @150	
腹 筋	6-D10	6-D10		4-D10	2-D10	2-D10	



スラブリスト S=1/30		
1S1	1S2	1CS1

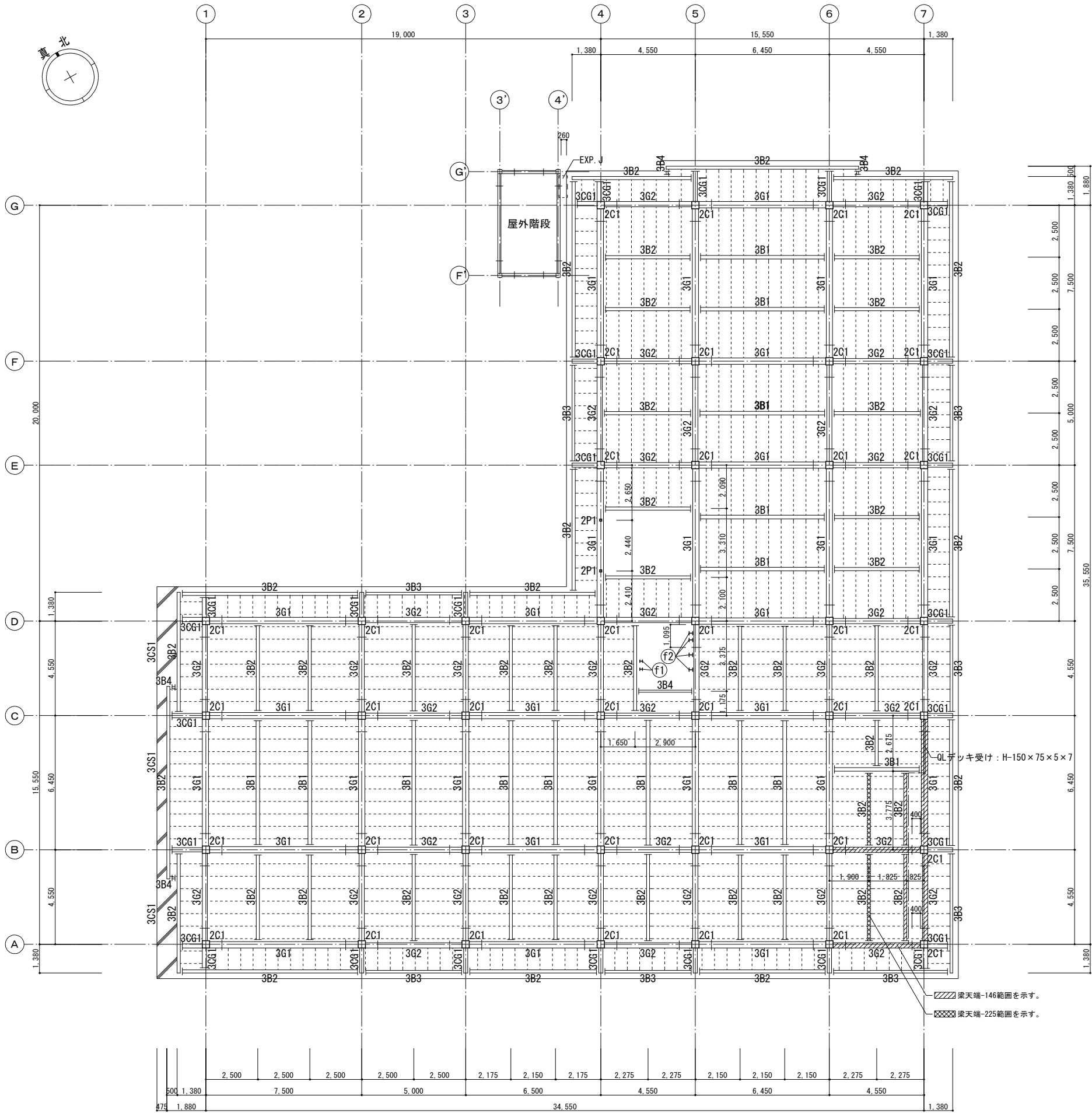


1階柱2階梁伏図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

柱梁部材リスト	
柱	
1C1	□-350×350×22 (BCR295)
1P1	□-100×100×3.2
f1	H-125×125×6.5×9
f2	H-175×175×7.5×11
大梁	
2G1	H-440×300×11×18
2G2	H-340×250×9×14
2CG1	H-294×200×8×12
小梁	
2B1	H-350×175×7×11
2B2	H-300×150×6.5×9
2B3	H-250×125×6×9
2B4	H-200×100×5.5×8
その他	
QLデッキ	QL99-50-1.2 コンクリート山上80mm 溶接金網φ6-150×150

A3→71%印刷



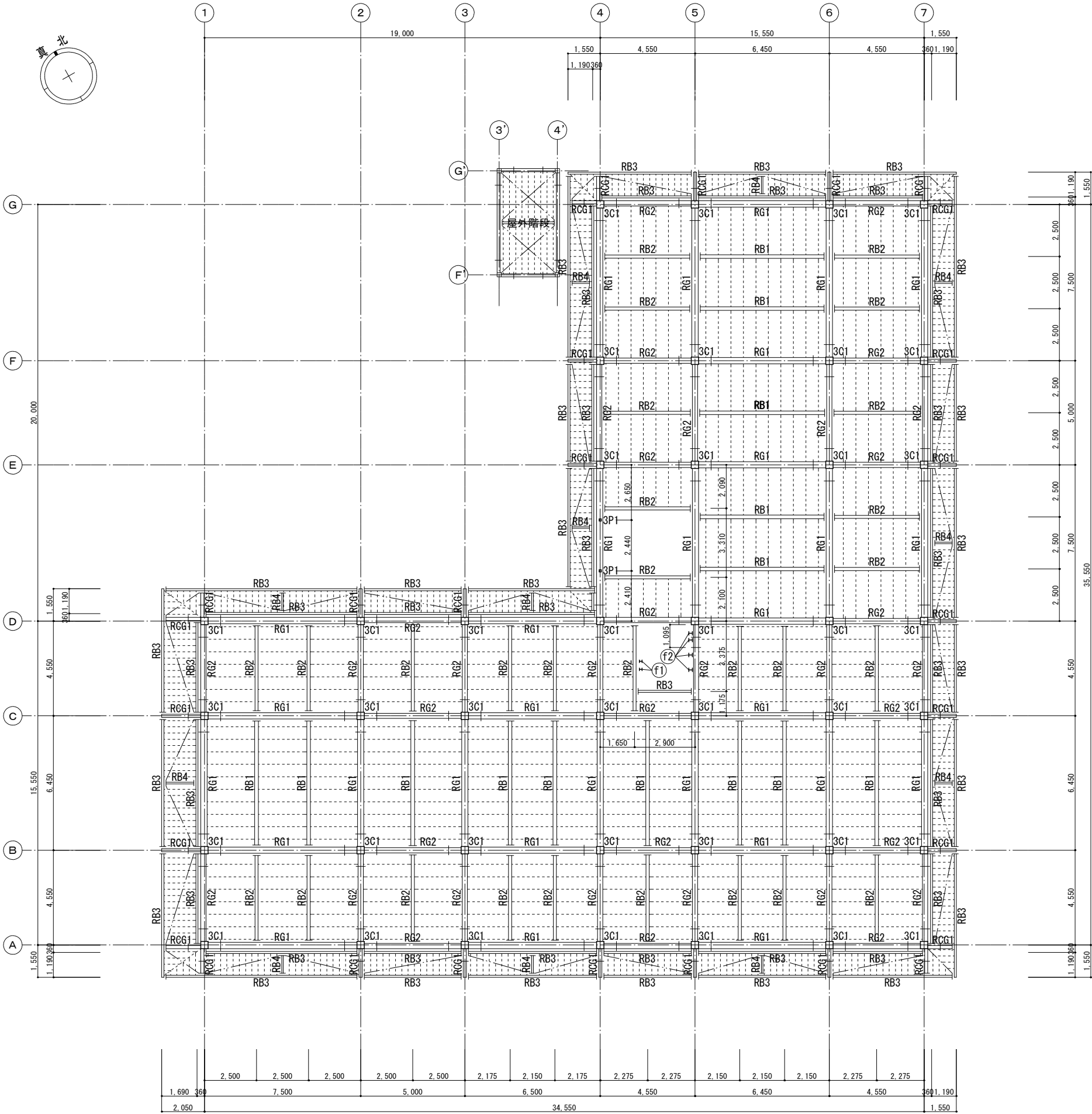
2階柱3階梁伏図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

柱梁部材リスト	
柱	
2C1	□-350×350×19(BCR295)
2P1	□-100×100×3.2
f1	H-125×125×6.5×9
f2	H-175×175×7.5×11
大梁	
3G1	H-440×300×11×18
3G2	H-340×250×9×14
3CG1	H-294×200×8×12
小梁	
3B1	H-350×175×7×11
3B2	H-300×150×6.5×9
3B3	H-250×125×6×9
3B4	H-200×100×5.5×8
その他	
QLデッキ	QL99-50-1.2 コンクリート山上80mm 溶接金網φ6-150×150

APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

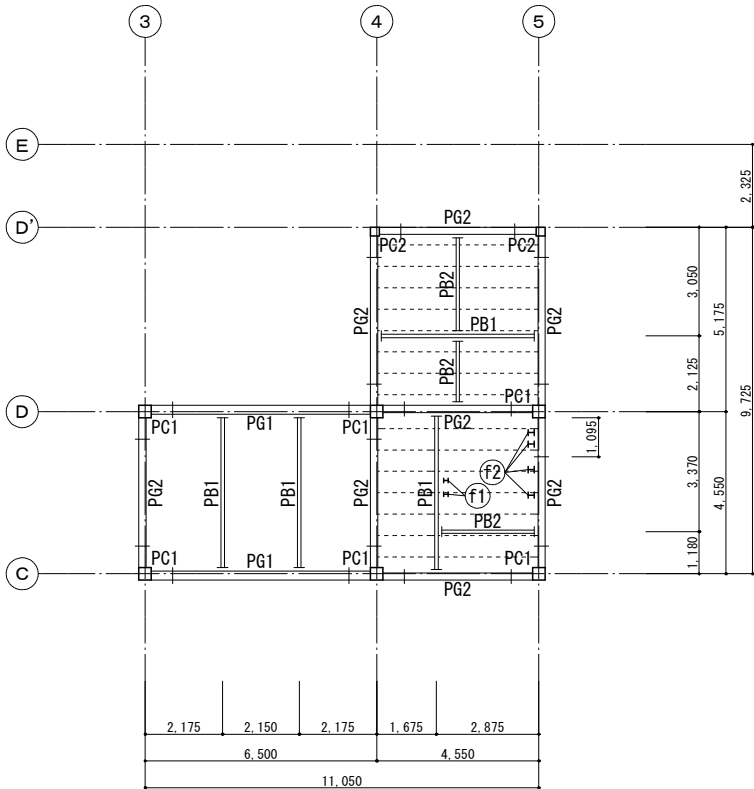
(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.09.12
柱梁伏図(2) S=1/150	S-12
アズ建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-1508号 一級建築士 第88163号 斉藤孝夫



3階柱R階梁伏図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

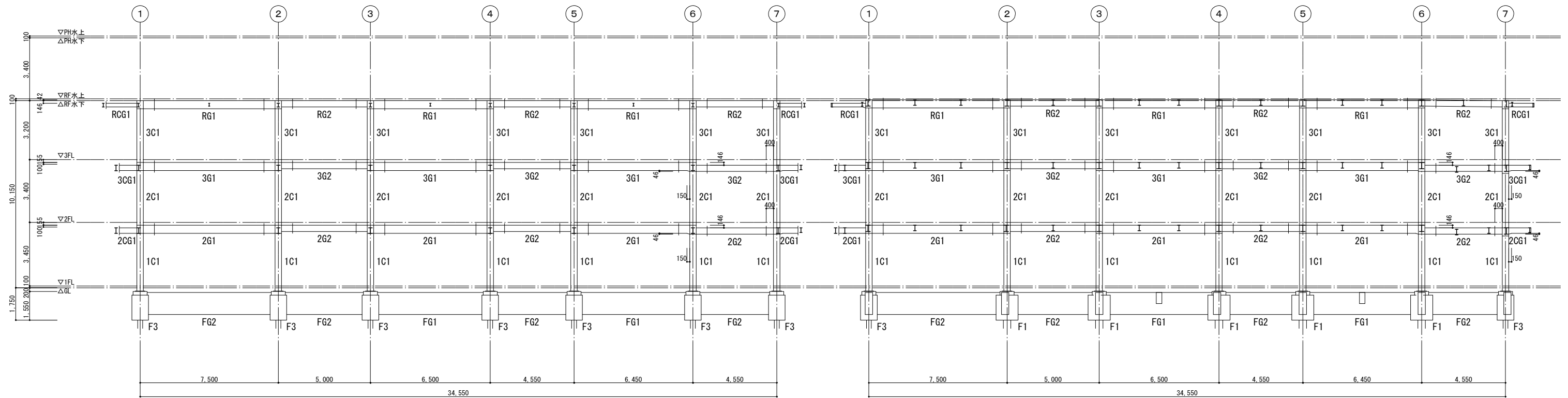
柱梁部材リスト			
柱		小梁	
3C1, PC1	□-350×350×16 (BCR295)	RB1	H-350×175×7×11
PC2	□-250×250×9 (BCR295)	RB2	H-300×150×6.5×9
		RB3	H-200×100×5.5×8
3P1	□-100×100×3.2	RB4	H-150×75×5×7
		PB1	H-200×100×5.5×8
f1	H-125×125×6.5×9	PB2	H-175×90×5×8
f2	H-175×175×7.5×11		
大梁		その他	
RG1	H-440×300×11×18	RF:QLデッキ	QL99-50-1.2
RG2	H-340×250×9×14		コンクリート山上80mm
RCG1	H-194×150×6×9		溶接金網φ6-150×150
PG1	H-340×250×9×14	PF:QLデッキ	QL99-50-1.2
PG2	H-294×200×8×12		コンクリート山上60mm
			溶接金網φ6-150×150
		底ブレース	ターンバックル付ブレース M12



R階柱PH階梁伏図 S=1/150

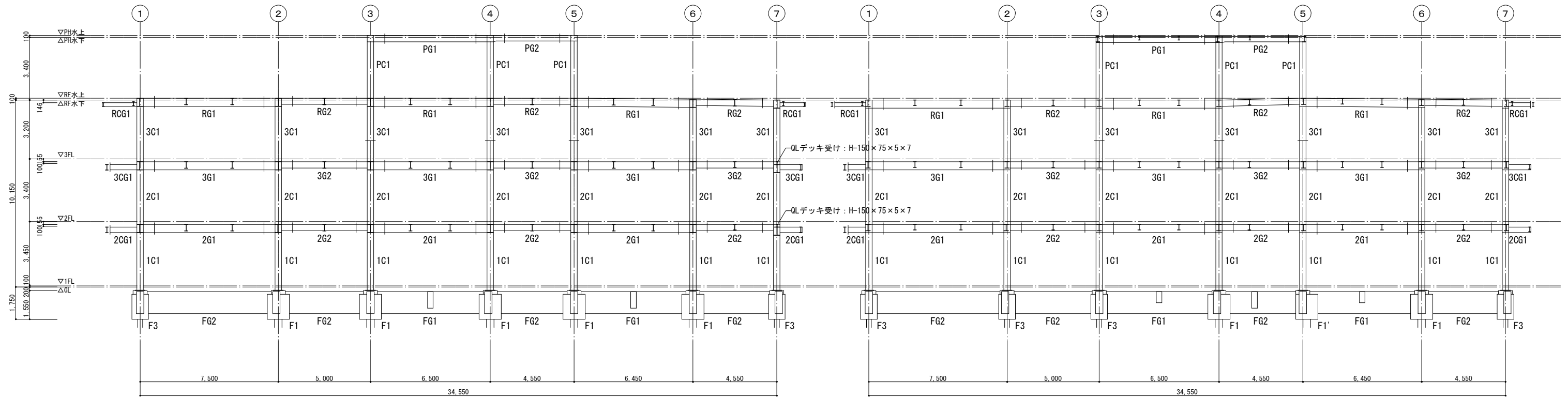
※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

A3→71%印刷



A通軸組図 S=1/150

B通軸組図 S=1/150




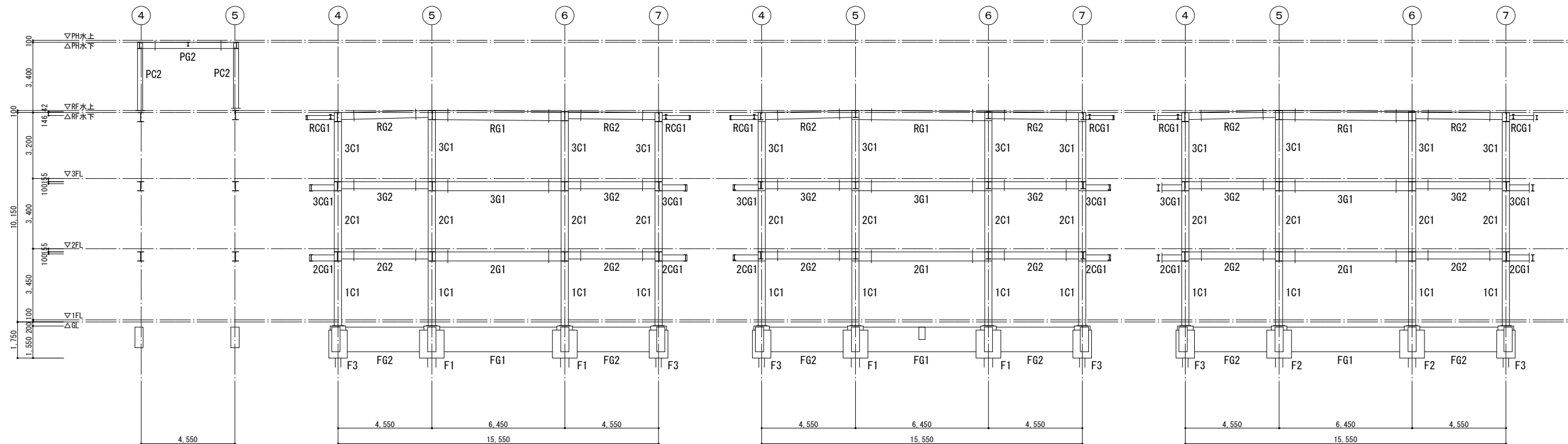
C通軸組図 S=1/150

D通軸組図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

A3→71%印刷

APA建築設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号 一級建築士登録 第309704号 大津 健作 構造設計一級建築士 第2882号	（仮称）特別養護老人ホームひかり		R04.09.12
	軸組図（1） S=1/150		S-14
	 アズ 建築設計事務所		一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第88163号 齊藤孝夫
	広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616		

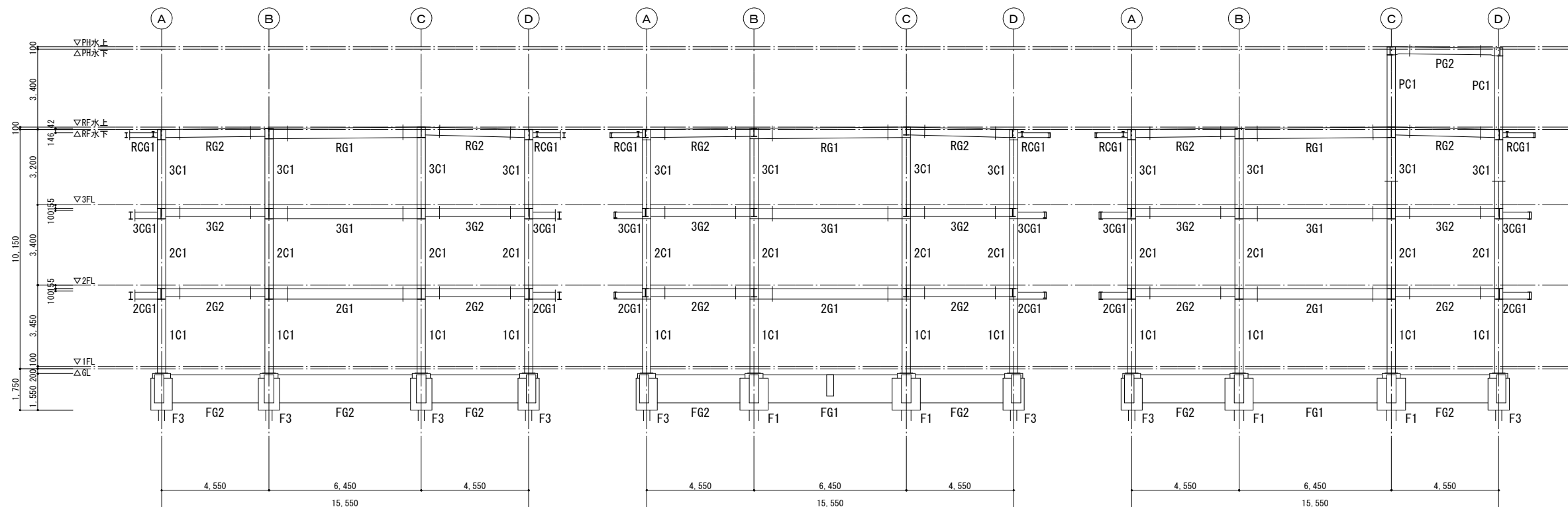


D' 通軸組図 S=1/150

E 通軸組図 S=1/150

F 通軸組図 S=1/150

G 通軸組図 S=1/150

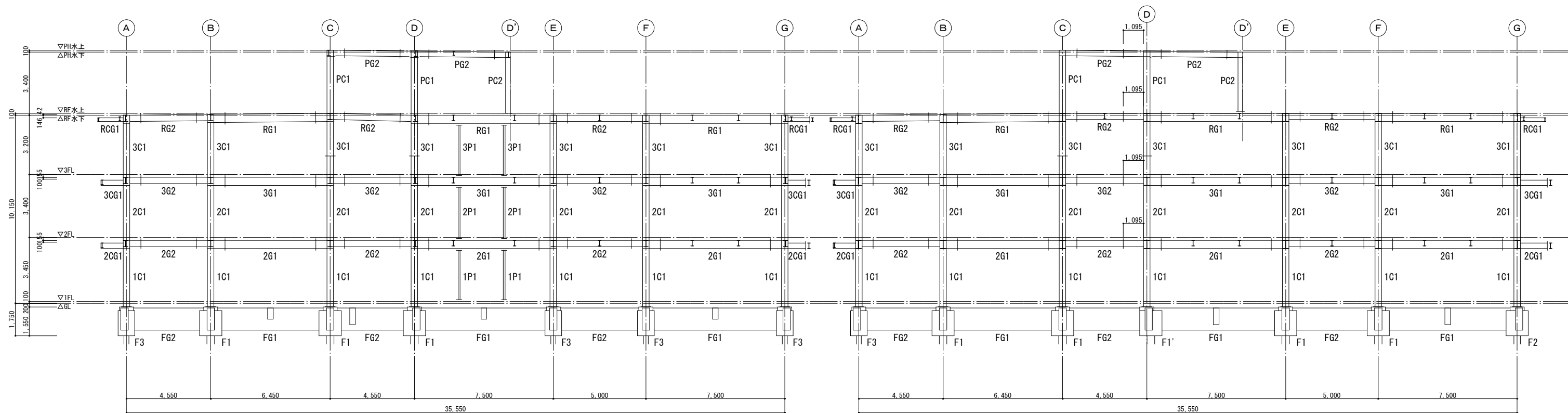


1 通軸組図 S=1/150

2 通軸組図 S=1/150

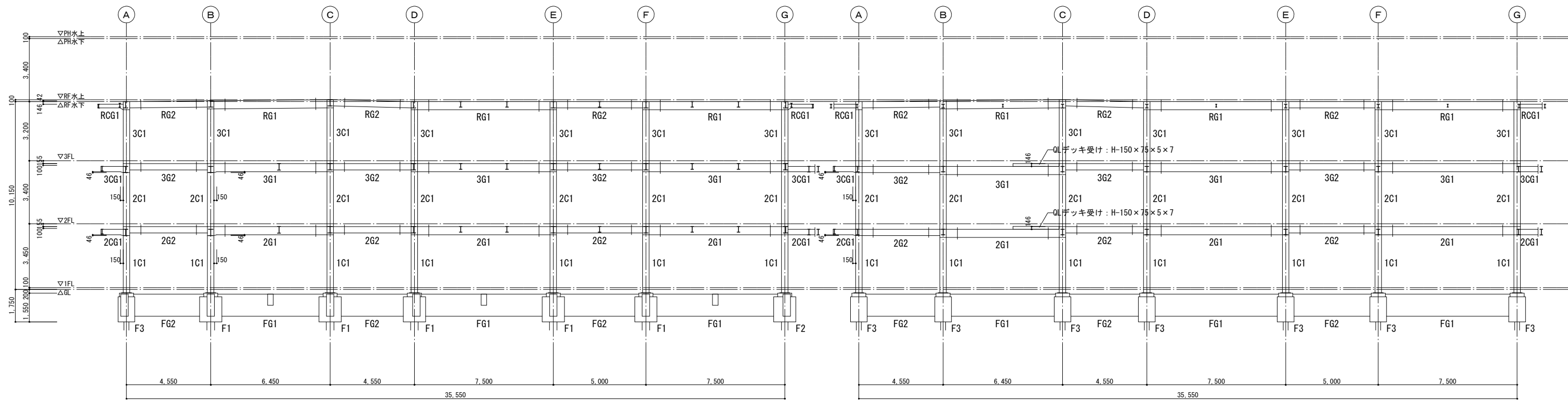
3 通軸組図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。



4 通軸組図 S=1/150

5 通軸組図 S=1/150



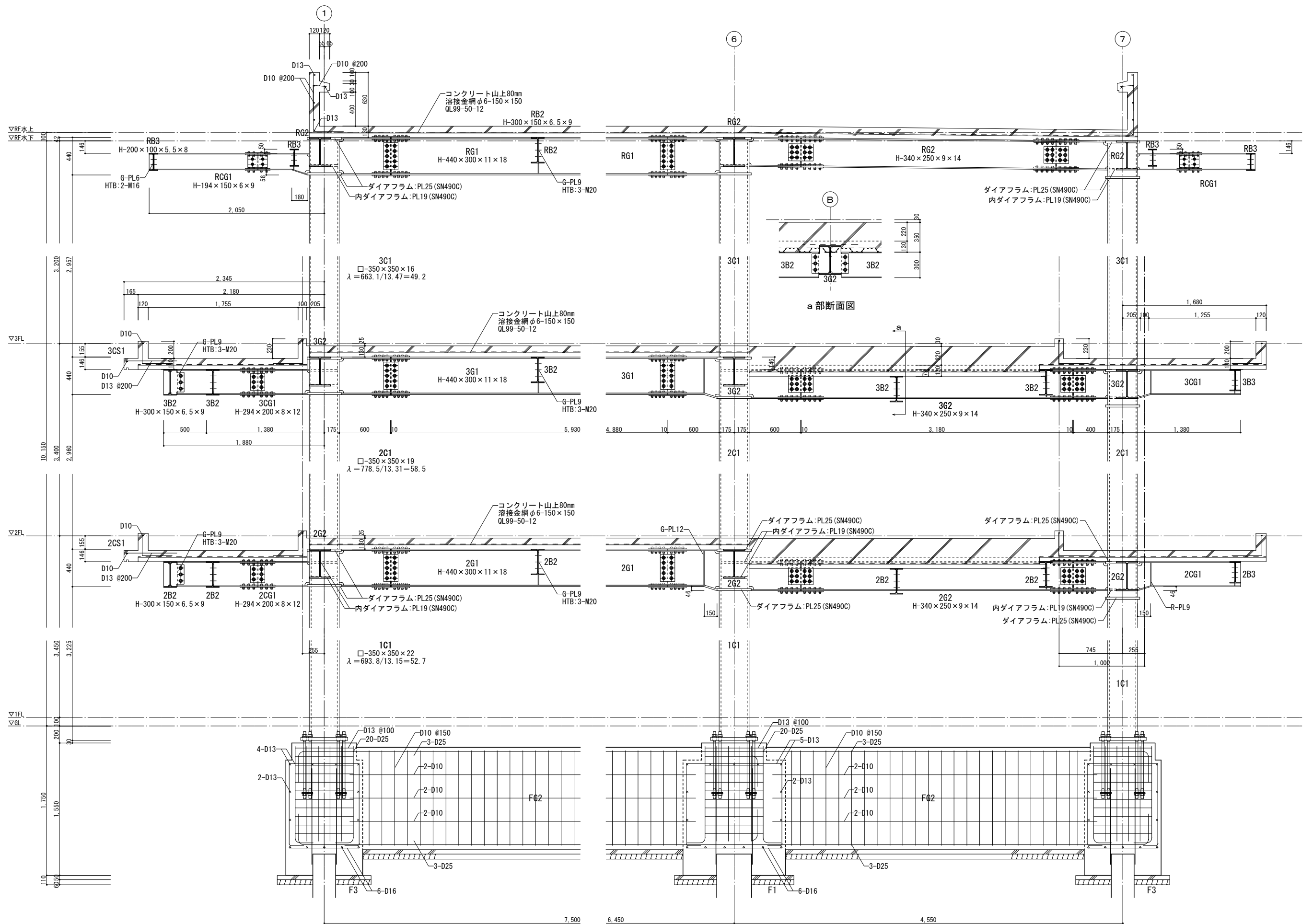
6 通軸組図 S=1/150

7 通軸組図 S=1/150

※特記なき限り大梁継手位置は柱面から600mmとする。

A3→71%印刷

APA建築設計 一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号 一級建築士登録 第309704号 大津 健作 構造設計一級建築士 第2882号	(仮称) 特別養護老人ホームひかり		R04.09.12
	軸組図(3) S=1/150		S-16
	アズ建築設計事務所		一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第88163号 齊藤孝夫
	広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616		

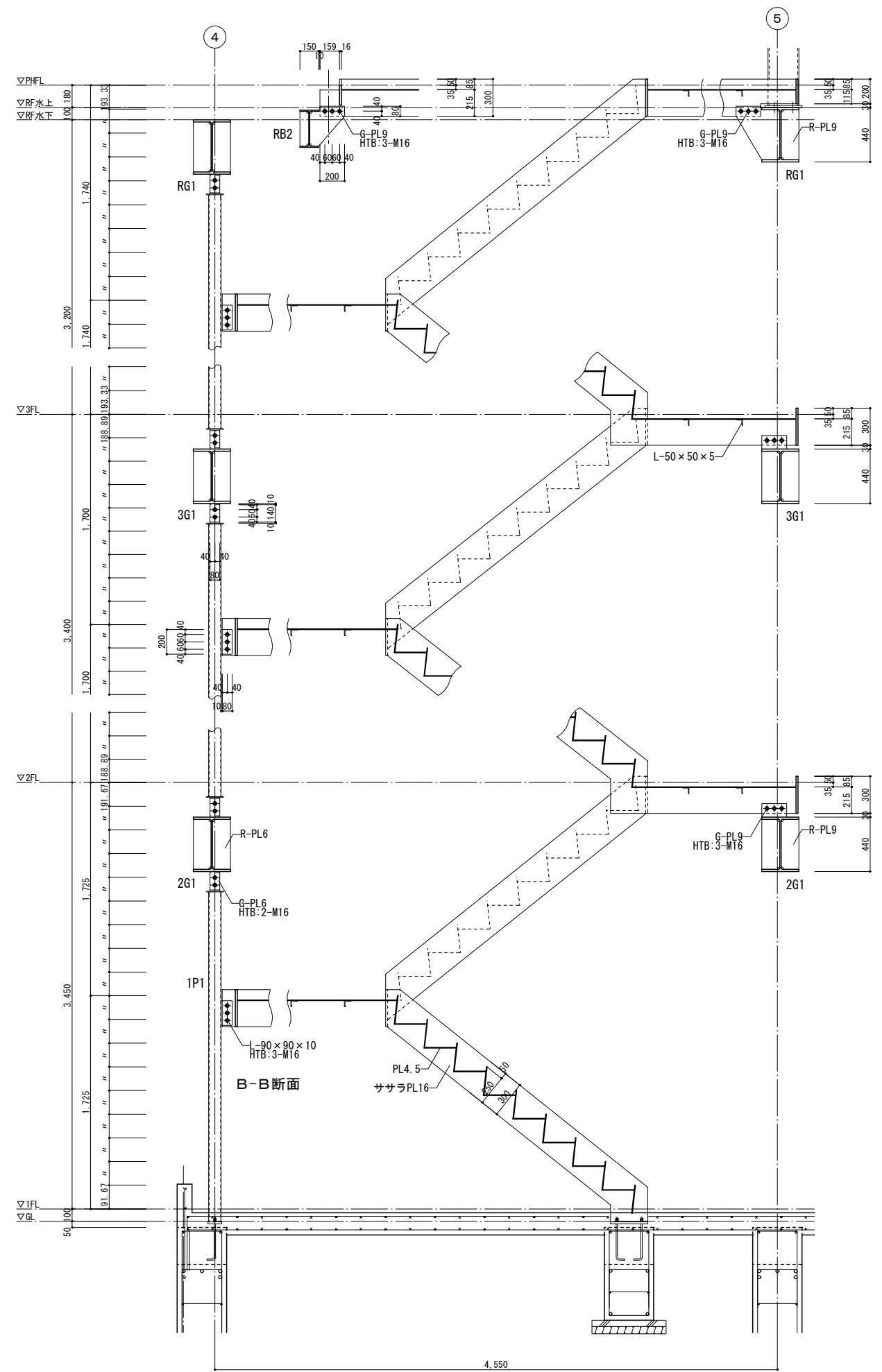
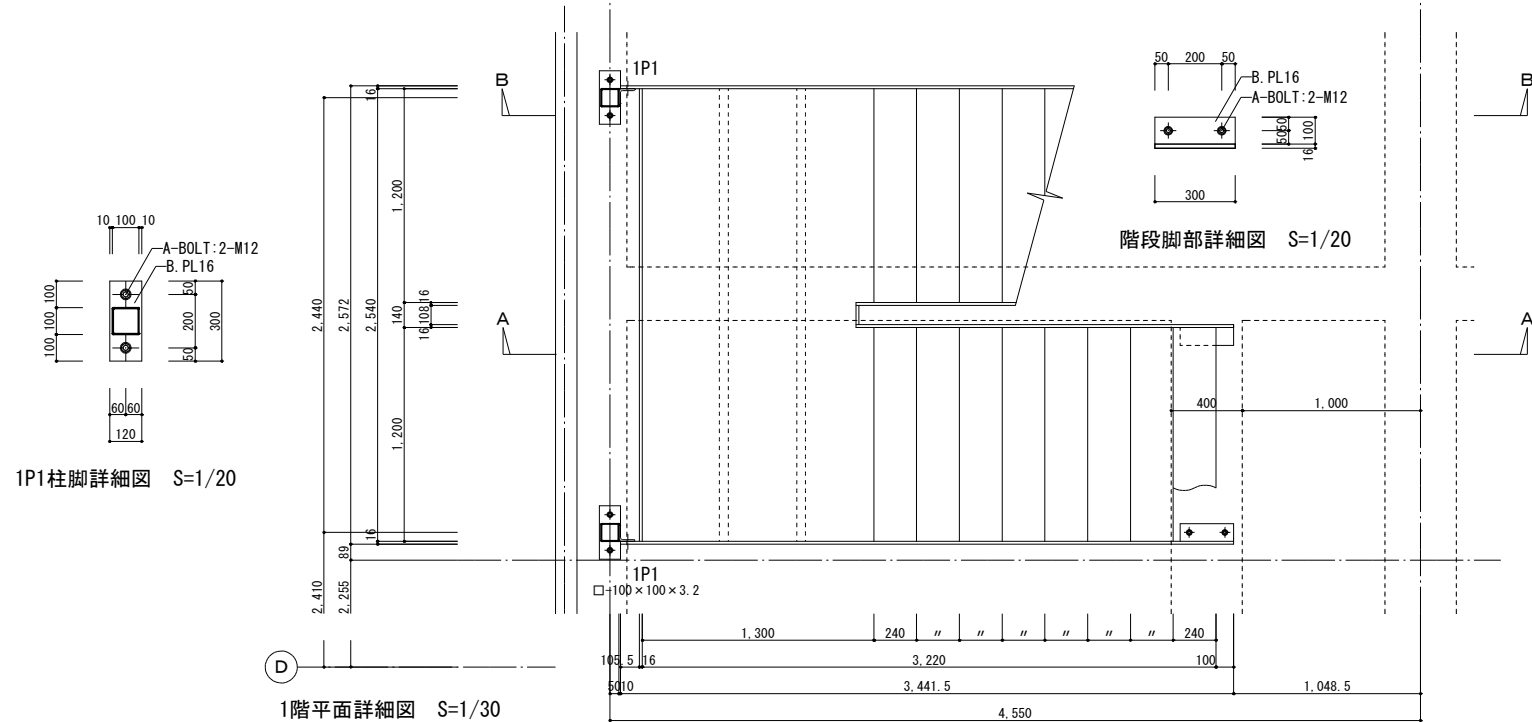
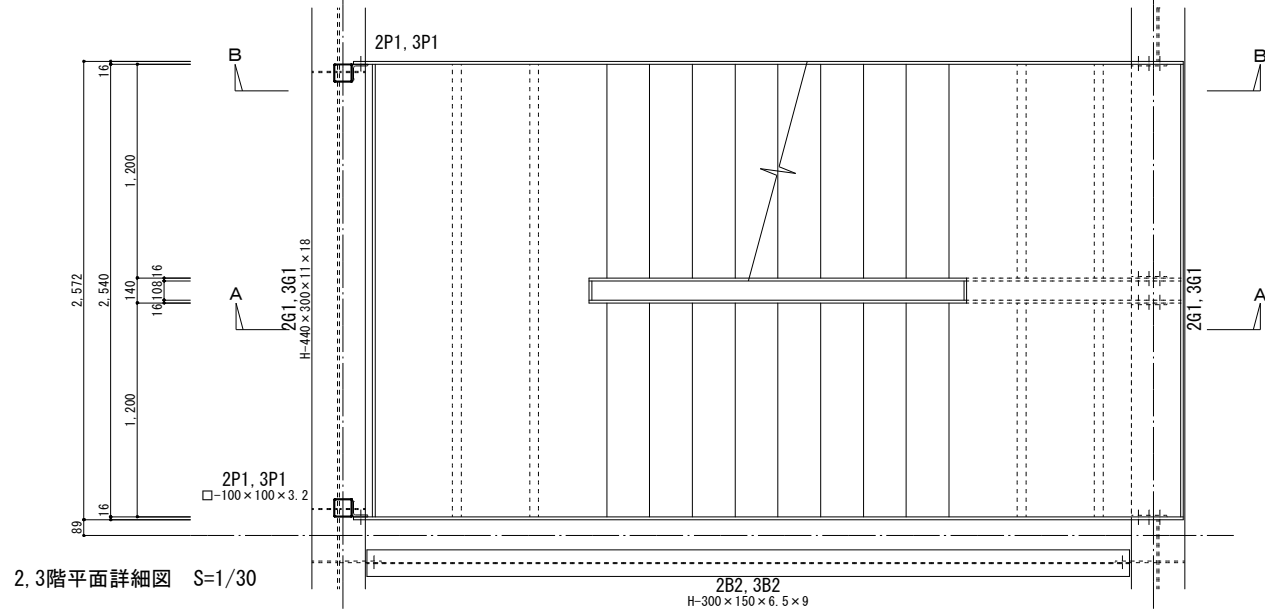
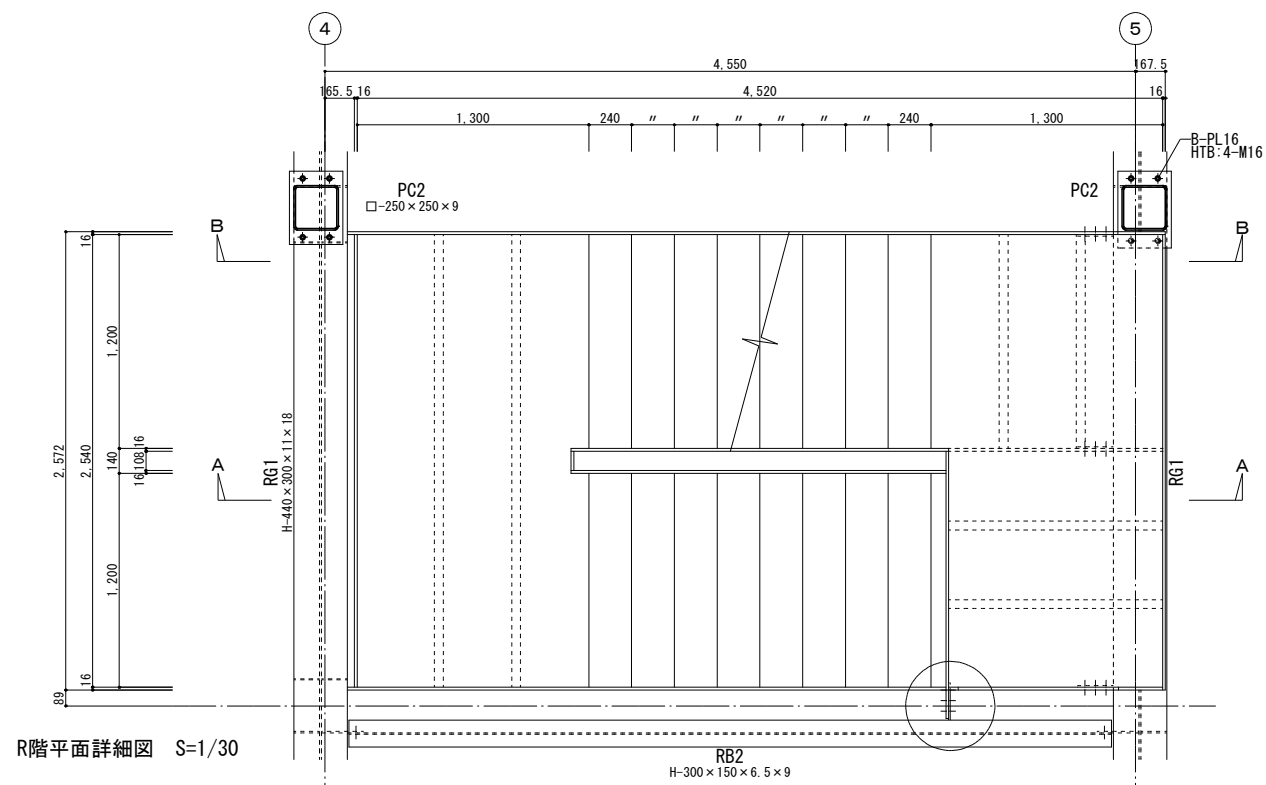


B通軸組詳細図 S=1/30

A3→71%印刷

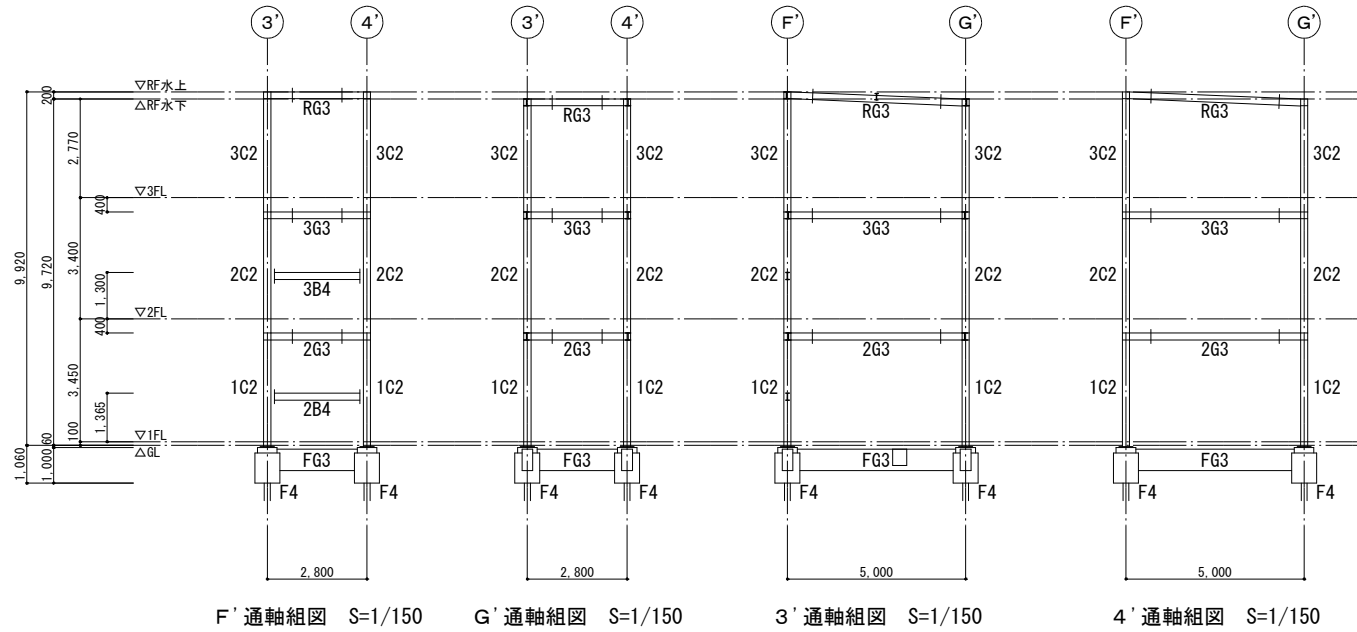
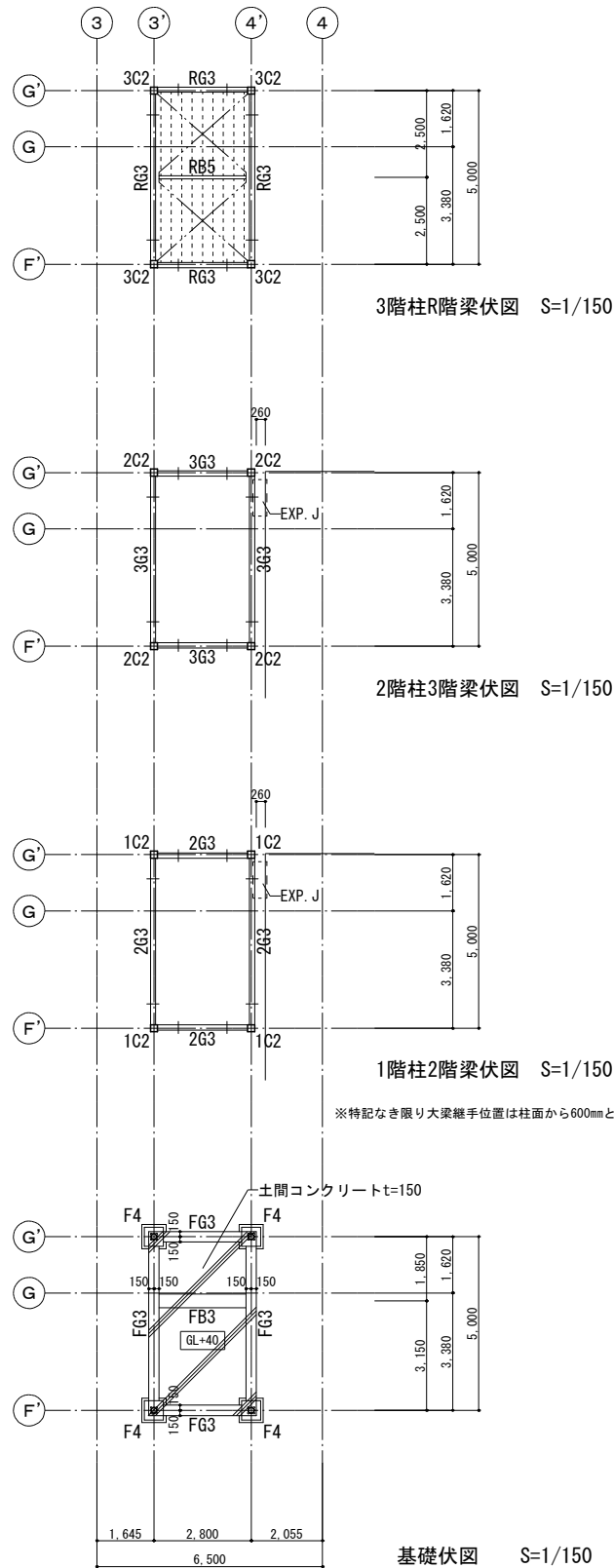
APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.09.12
軸組図詳細図 S=1/30	S-17
アズ建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第88163号 齊藤孝夫

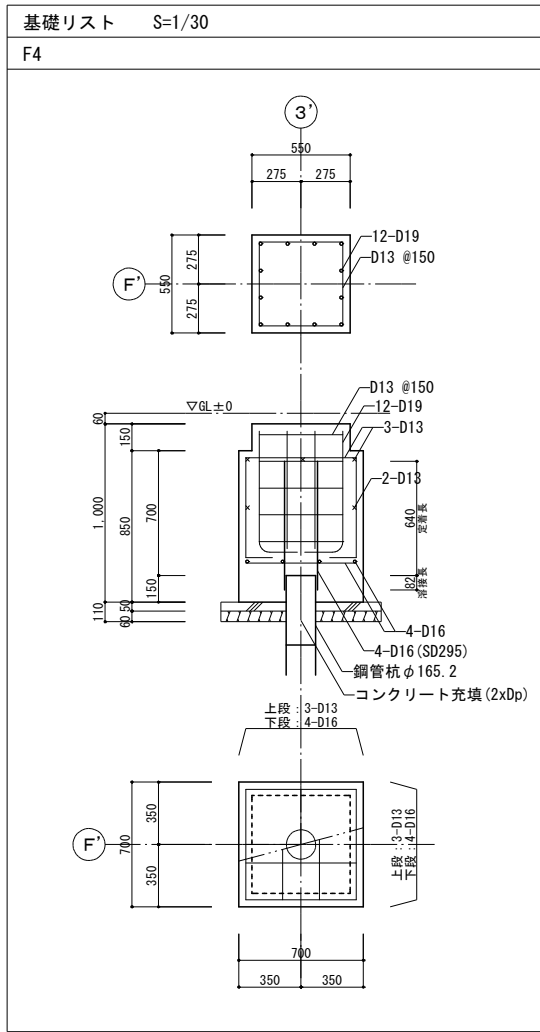


APA 建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

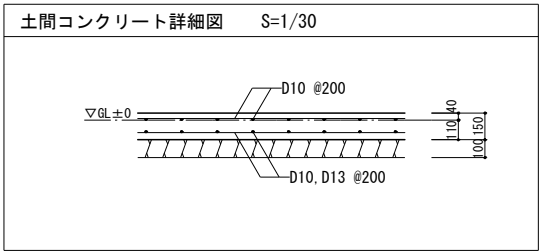
(仮称) 特別養護老人ホームひかり	R04.07.21
階段詳細図 S=1/30	S-18
 アズ建築設計事務所 広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616	一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第08163号 齊藤孝夫



柱梁部材リスト	
柱	
1C2, 2C2, 3C2	□-200×200×9 (BCR295)
大梁	
2G3, 3G3, RG3	H-194×150×6×9
小梁	
2B4, 3B4	H-200×100×5.5×8
RB5	H-175×90×5×8
その他	
屋根ブレース	ターンバックル付ブレース M12



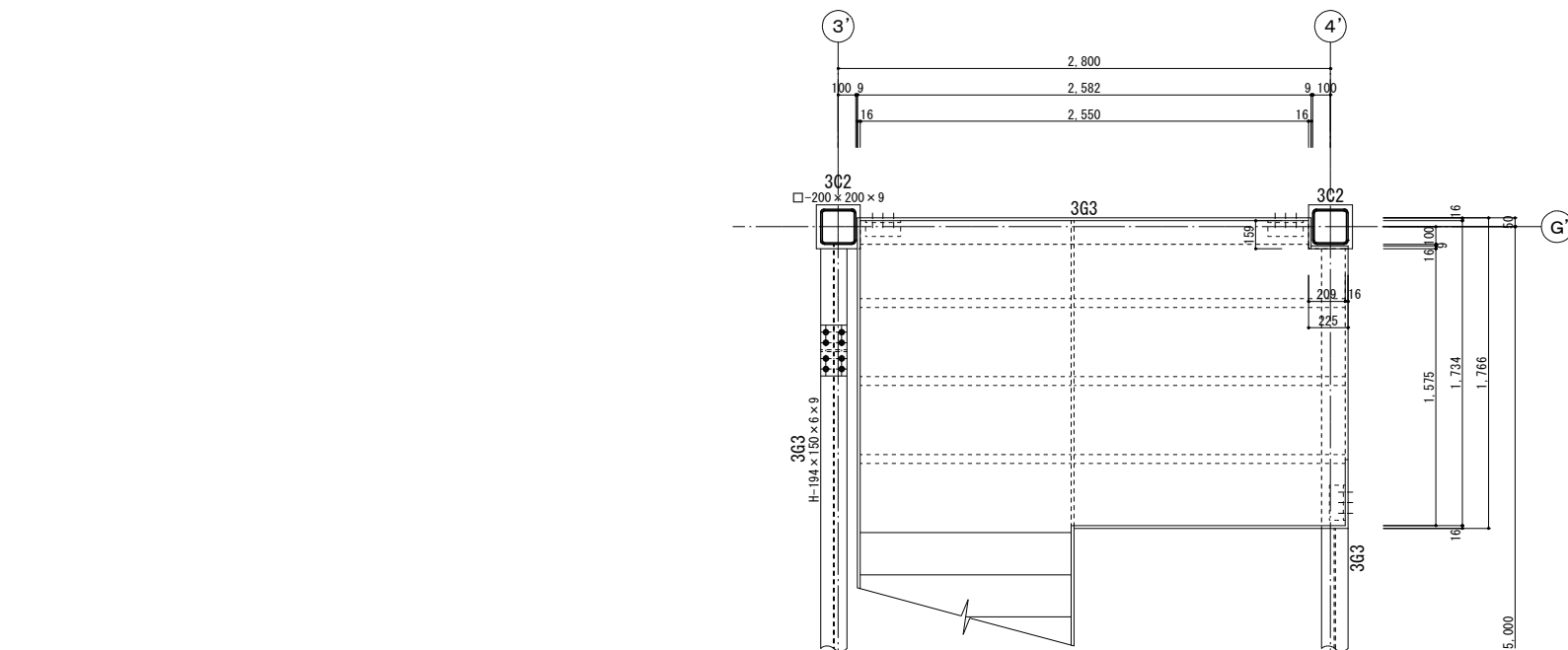
地中梁リスト S=1/30		
記号	FG3	FB3
部位	全断面	全断面
断面		
主筋	2-D22/2-D22	2-D16/2-D16
あばら筋	D10 @200	D10 @150
腹筋	2-D10	2-D10



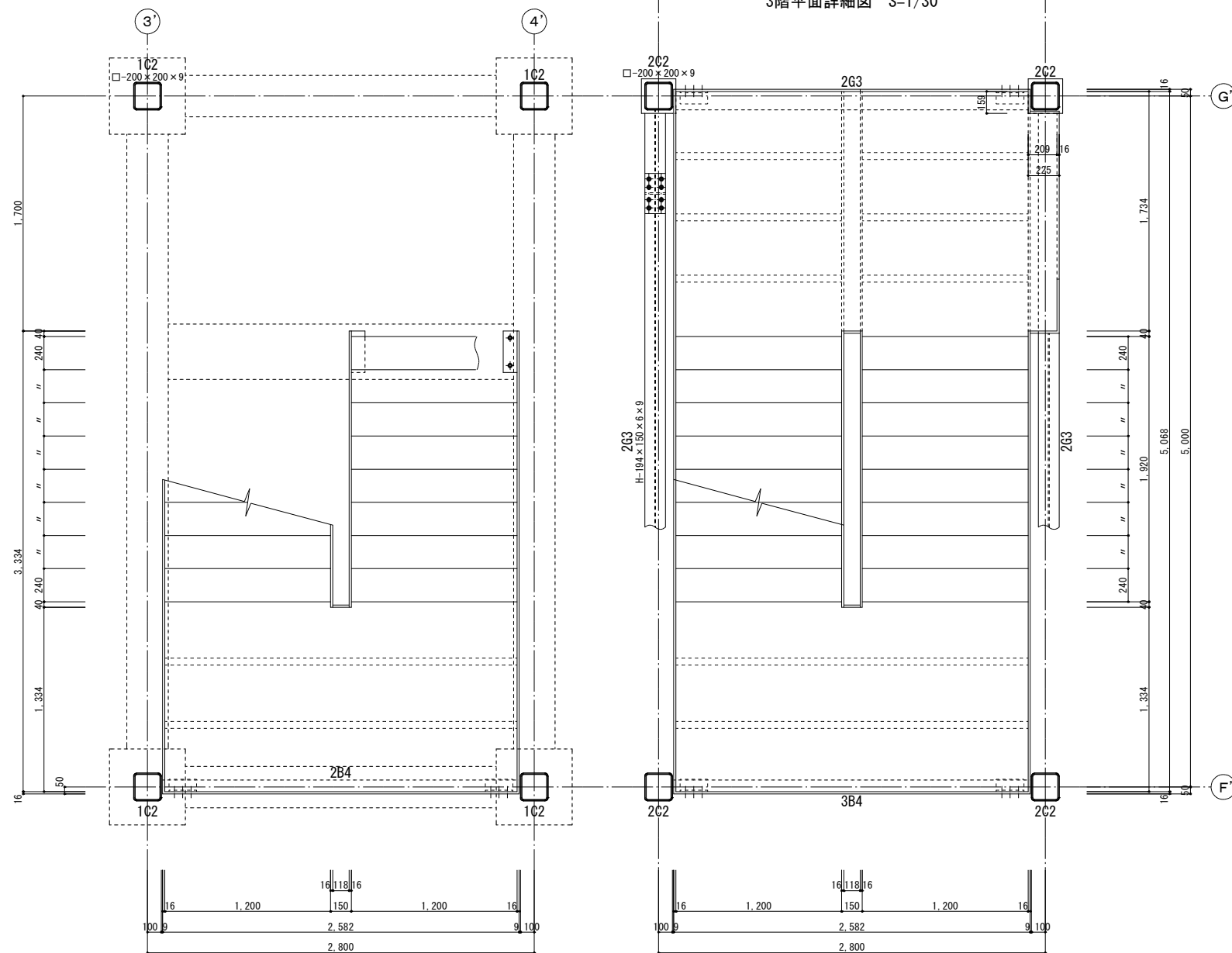
回転圧入鋼管杭 工法					
杭種	外径 Dw (mm)	管径 Dw (mm)	杭長 L (m) (下杭+上杭)	下杭	
				t (mm)	材質
				長さ (m)	材質
○	165.2	450	11.89	7.1	STK490
				6.00	5.89
					4

APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

（仮称）特別養護老人ホームひかり		R04.09.12
屋外階段伏図・軸組図 S=1/150		S-19
		一級建築士事務所 広島 19-1-1588号 一級建築士 第88163号 齊藤孝夫

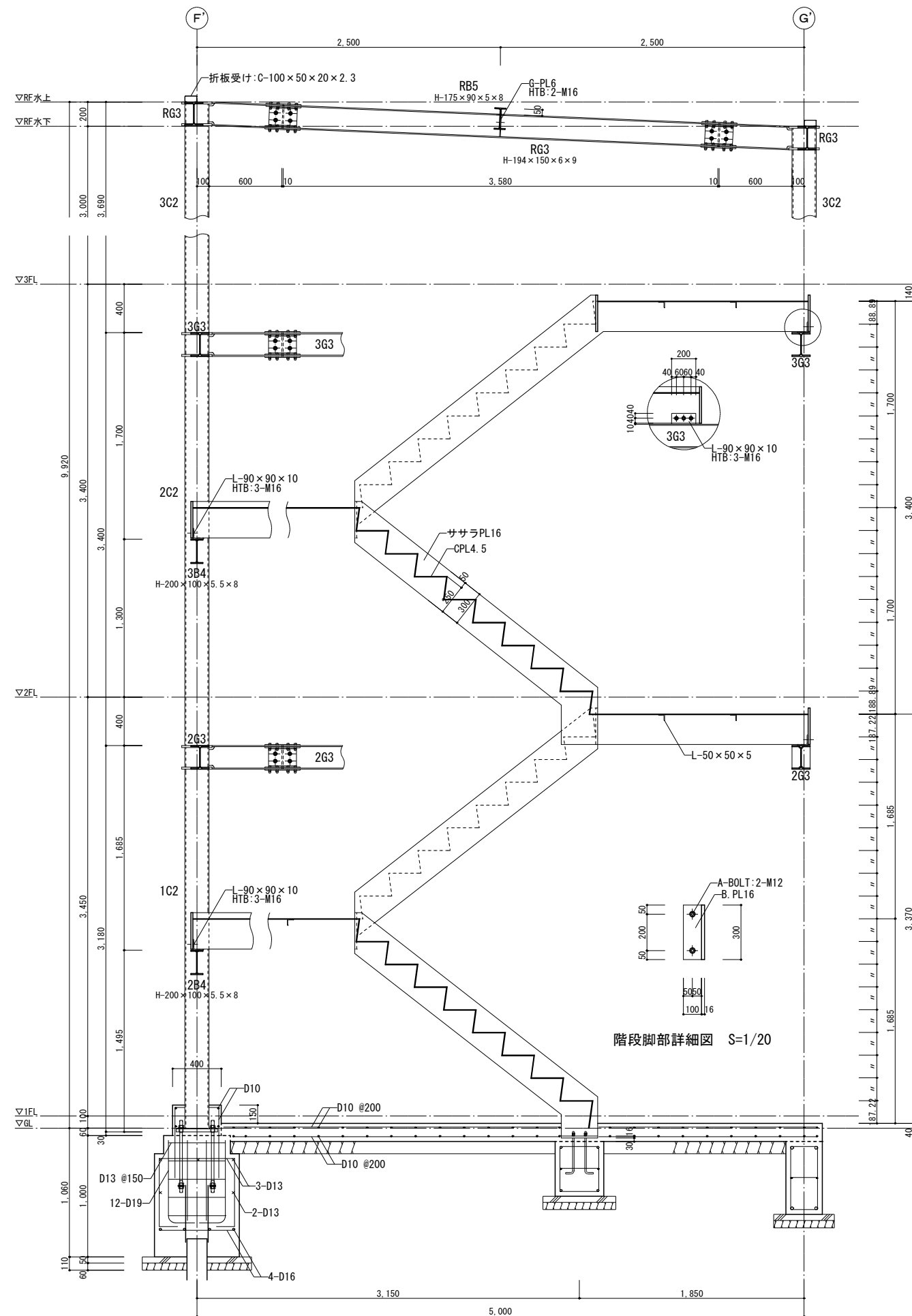


3階平面詳細図 S=1/30



1階平面詳細図 S=1/30

2階平面詳細図 S=1/30



B-B断面詳細図 S=1/30

階段脚部詳細図 S=1/20

A3→71%印刷

APA建築設計
一級建築士事務所 広島県知事登録 第18(1)4974号
一級建築士登録 第309704号 大津 健作
構造設計一級建築士 第2882号

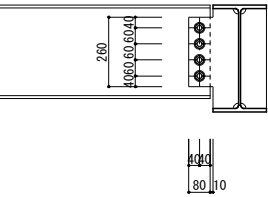
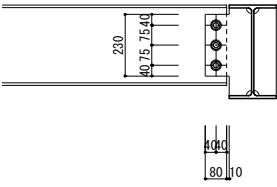
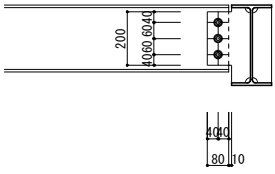
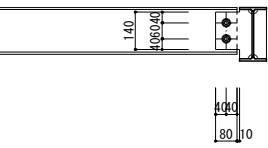
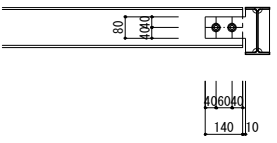
(仮称) 特別養護老人ホームひかり
屋外階段詳細図 S=1/30
アズ建築設計事務所
広島県福山市春日町1-8-16 Tel・Fax:084-941-0616

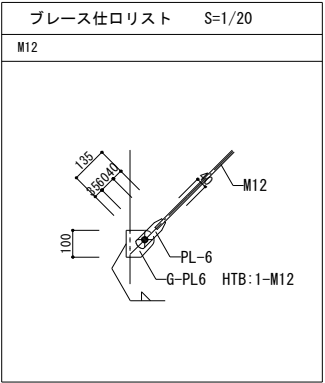
R04.09.12
S-20
一級建築士事務所 広島 19-1-1588号
一級建築士 第88163号 齊藤孝夫

柱脚リスト S=1/20			
柱脚記号	1C1 : ISベース SH352	柱脚記号	1C2 : ISベース SH201
柱寸法	□350×350×22	柱寸法	□200×200×9
アンカーボルト	8-M30	アンカーボルト	4-M24
ベースプレート	550×550×36	ベースプレート	340×340×25
柱主筋	20-D25	柱主筋	12-D19
帯筋	D13@100	帯筋	D13@150

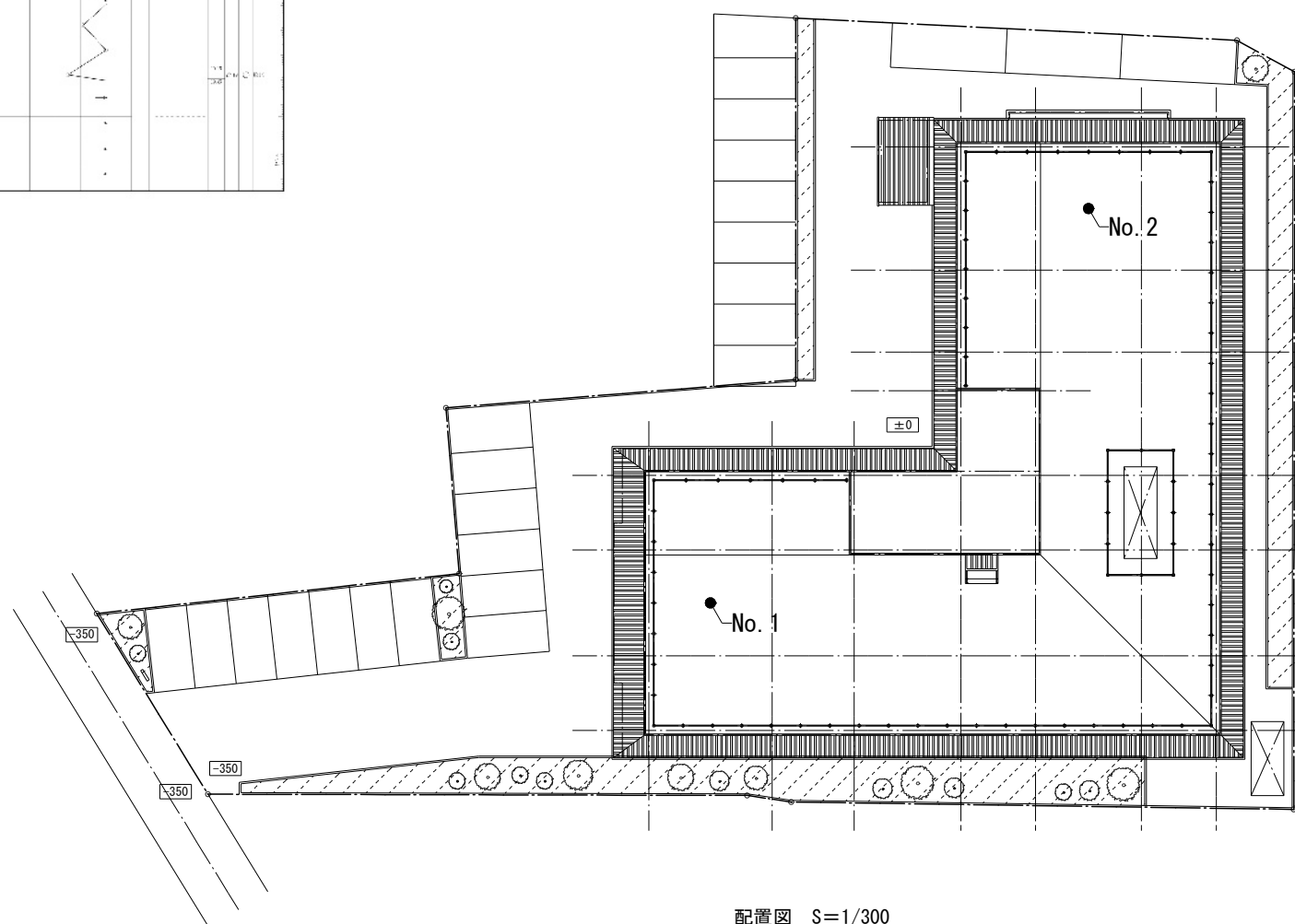
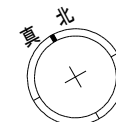
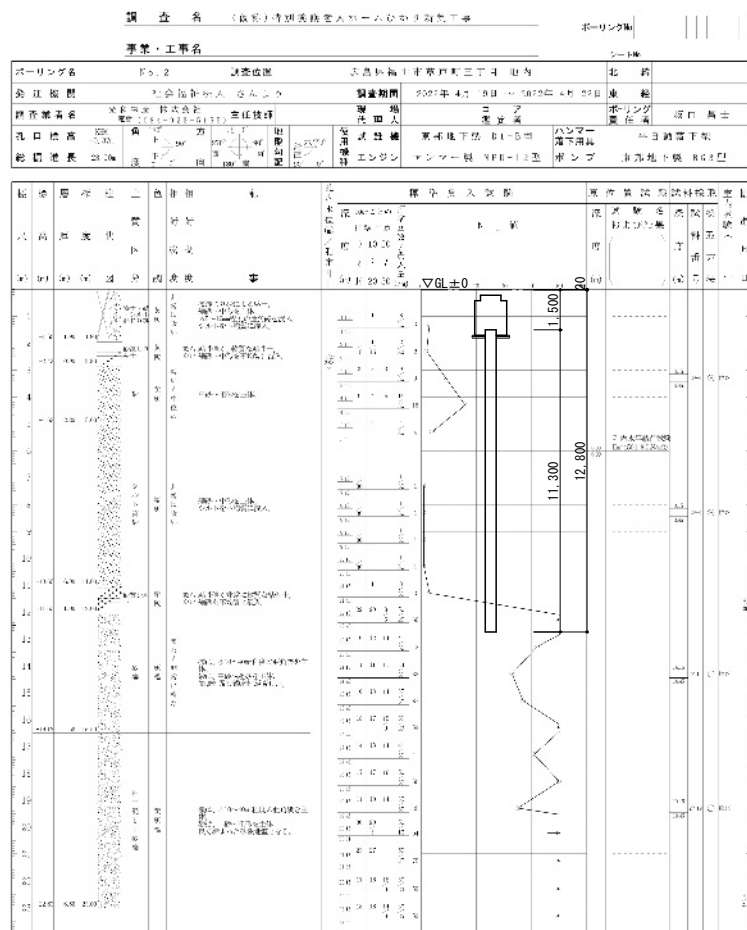
大梁継手リスト S=1/20								
H-440×300×11×18			H-340×250×9×14			H-294×200×8×12		
フランジ	外側板 12mm, 内側板 12mm	HTB:32-M20	フランジ	外側板 12mm, 内側板 12mm	HTB:32-M20	フランジ	外側板 9mm, 内側板 9mm	HTB:24-M20
ウェブ	添板 9mm	HTB:10-M20	ウェブ	添板 9mm	HTB:12-M20	ウェブ	添板 9mm	HTB:6-M20
H-194×150×6×9								
フランジ	外側板 9mm, 内側板 9mm	HTB:16-M16						
ウェブ	添板 6mm	HTB:4-M16						

柱継手参考図 S=1/20

小梁仕口リスト S=1/20								
H-350×175×7×11			H-300×150×6.5×9			H-250×125×6×9		
								
ガセットプレート	板厚 9mm	HTB:4-M20	ガセットプレート	板厚 9mm	HTB:3-M20	ガセットプレート	板厚 6mm	HTB:3-M16
リブプレート	板厚 9mm		リブプレート	板厚 9mm		リブプレート	板厚 6mm	
H-175×90×5×8			H-150×75×5×7					
								
ガセットプレート	板厚 6mm	HTB:2-M16	ガセットプレート	板厚 6mm	HTB:2-M16			
リブプレート	板厚 6mm		リブプレート	板厚 6mm				



ボーリング柱状図



配置図 S=1/300

A3→71%印刷